

# 加茂・勝北・久米・阿波 地域振興ビジョン



平成31年3月

津山市  
地域振興部





## はじめに

津山市は平成17年2月28日、津山市、加茂町、阿波村、勝北町及び久米町の1市3町1村が合併し、新生津山市として発足しました。

合併後10年を終えた平成27年に、「合併10年の総括と今後の展望」を策定し、その中で示したように、合併後10年間は新市の一体感の醸成に努めて来ましたが、少子高齢化は依然として進んでおり、特に合併町村の人口減少が顕著です。そのような状況の中、阿波地域のように、地域運営組織を立ち上げて地域生活拠点の整備を独自に行い、移住者の増加を図るなど一定の成果を上げている地域もあります。

今後、第5次総合計画に基づいて全市的な発展を図るためには、各地域の課題、魅力を抽出し、自然、歴史、伝統、文化などの地域の特性・特色を生かしてまちづくりを進めることが重要になります。

また、各支所、出張所地域を生活の場として維持していくためには、第5次総合計画の土地利用計画に示されているように、各支所周辺を地域生活拠点として整備することが課題となります。このような持続可能な地域づくりを行うためには、全市一律の振興策ではなく、各支所・出張所において地域の特性を活かし、個性ある地域づくりを進める必要があります。

このために、合併町村各地域の概要(沿革、地域特性、人口推移等)、まちづくりの方針(分野ごとの現状と課題、施策の方向等)、地域ごとのアクションプランを記載した地域振興ビジョンを策定しました。

平成31年3月

津山市 地域振興部

## 目 次

はじめに

加茂地域振興ビジョン	1
加茂地域全図	2
加茂地域の地域生活拠点周辺図	3
1. 加茂地域の概要	4
(1) 沿革	4
(2) 地域の特性等	4
(3) 人口の推移	5
2. まちづくりの方針	7
(1) 地域生活拠点づくりの推進	7
(2) 自然環境の保全、環境負荷の低減	8
(3) 産業の振興	9
(4) 地域生活拠点と小さな拠点との連携強化	10
(5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり	11
(6) 生涯学習活動の振興と高齢者の生きがい対策	12
(7) 歴史遺産の保全・活用、景観形成の方針	13
(8) 安全・安心のまちづくり	14
加茂地域アクションプラン	16
勝北地域振興ビジョン	17
勝北地域全図	18
勝北地域の地域生活拠点周辺図	19
1. 勝北地域の概要	20
(1) 沿革	20
(2) 地域の特性等	20
(3) 人口の推移	20
2. まちづくりの方針	22
(1) 地域生活拠点づくりの推進	22
(2) 自然環境の保全、環境負荷の低減	23
(3) 産業の振興	24
(4) 地域生活拠点と小さな拠点との連携強化	25
(5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり	26
(6) 生涯学習活動の振興と高齢者の生きがい対策	27
(7) 歴史遺産の保全・活用	28
(8) 安全・安心のまちづくり	29
勝北地域アクションプラン	32

久米地域振興ビジョン	33
久米地域全図	34
久米地域の地域生活拠点周辺図	35
1. 久米地域の概要	36
(1) 沿革	36
(2) 地域の特性等	36
(3) 人口の推移	37
2. まちづくりの方針	38
(1) 地域生活拠点づくりの推進	38
(2) 自然環境の保全、環境負荷の低減	40
(3) 産業の振興	41
(4) 地域生活拠点と小さな拠点との連携強化	42
(5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり	43
(6) 生涯学習活動の振興と高齢者の生きがい対策	44
(7) 歴史遺産の保全・活用	45
(8) 安全・安心のまちづくり	45
久米地域アクションプラン	47
阿波地域振興ビジョン	49
阿波地域全図	50
阿波地域の地域生活拠点周辺図	51
1. 阿波地域の概要	52
(1) 沿革	52
(2) 地域の特性等	52
(3) 人口の推移	53
2. まちづくりの方針	54
(1) 地域生活拠点づくりの推進	54
(2) 自然環境の保全、環境負荷の低減	56
(3) 産業の振興	56
(4) 加茂地域との連携強化	57
(5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり	58
(6) 生涯学習活動の振興と高齢者の生きがい対策	59
(7) 歴史遺産の保全・活用、景観形成の方針	59
(8) 安全・安心のまちづくり	60
(9) 次世代育成	61
阿波地域アクションプラン	62

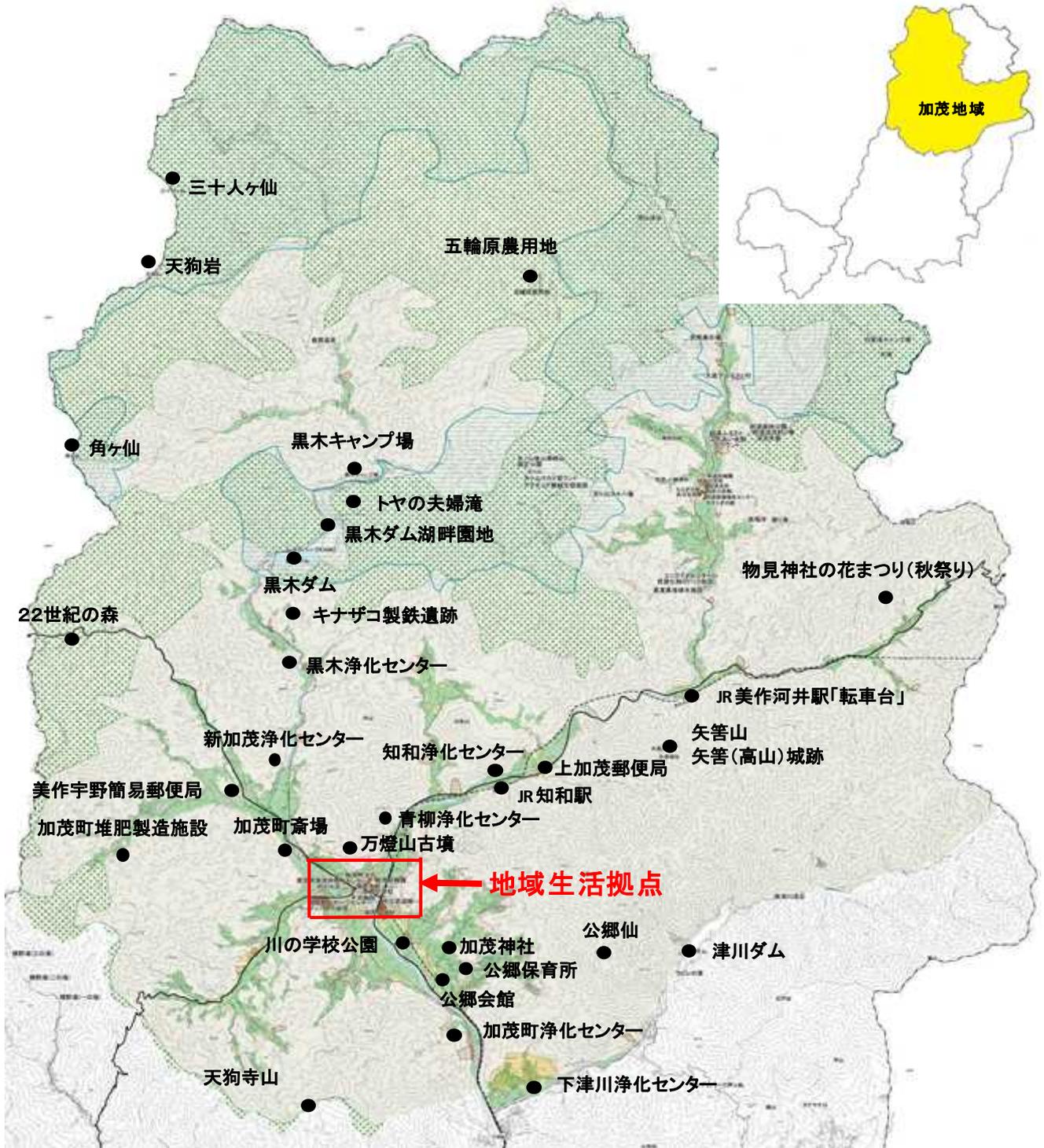


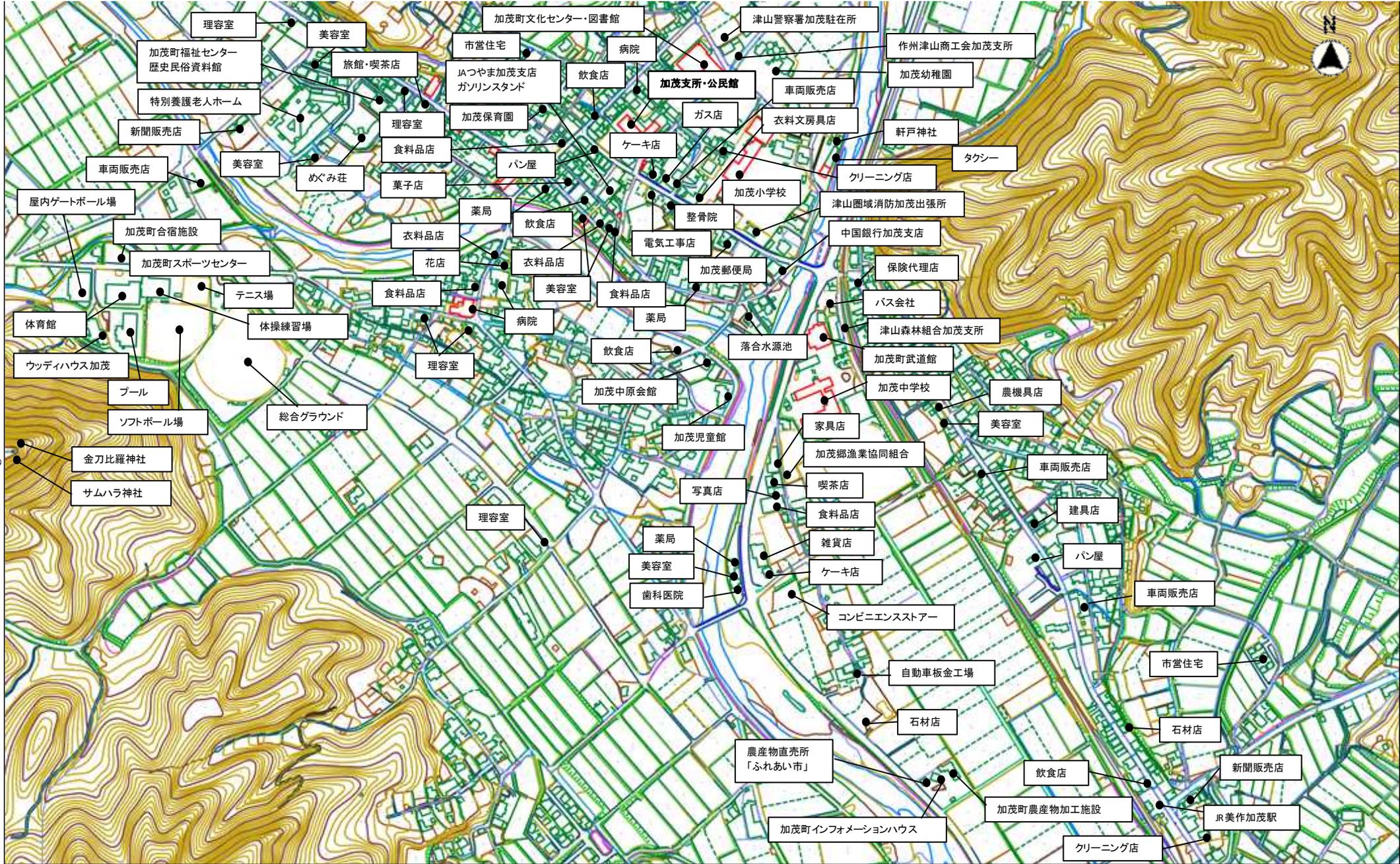
# 加茂地域振興ビジョン



津山市加茂支所

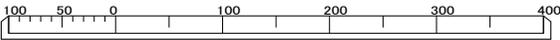
# 加茂地域全図





加茂地域の地域生活拠点周辺図

縮尺 1 : 7000



## 1. 加茂地域の概要

### (1) 沿革

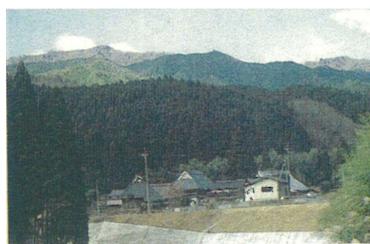
- ・明治22年 上加茂村、加茂村、東加茂村、西加茂村が設置される。
- ・大正13年 加茂村は、町制が施行され加茂町となる。
- ・昭和17年 加茂町、東加茂村、西加茂村が合併し加茂町となる。
- ・昭和26年 加茂町から旧加茂町の区域が分離し新加茂町が設置される。
- ・昭和29年 上加茂村、新加茂町、加茂町が合併し加茂町となる。
- ・平成17年2月28日 津山市、加茂町、阿波村、勝北町、久米町が合併し現在の津山市となる。

### (2) 地域の特性等

- ・加茂地域は津山市の北部に位置し、北は鳥取市（旧佐治村）北東部は鳥取県智頭町に隣接し、西に隣接する苫田郡鏡野町との境に位置する天狗岩（1,196.5m）、三十人ヶ仙（1,171.5m）、角ヶ仙（1,152.5m）等の急峻な中国山地に囲まれ、氷ノ山後山那岐山国定公園に指定された豊かな自然環境を有しており、総面積159.27km<sup>2</sup>の約9割を山林が占め、全般的に傾斜地が多くなっている。



天狗岩



黒木キャンプ場から望む三十人ヶ仙

三十人ヶ仙



角ヶ仙

- ・岡山市中心部へは約80km、鳥取市中心部へは物見峠経由で約60km、津山市中心部へは約20kmの距離にあり、主要地方道津山智頭八東線、国道53号、JR因美線及びJR津山線によって、津山市を中心として両市と結ばれている。また時間距離は、岡山市中心部へは約2時間、鳥取市中心部へは約1時間30分の距離である。
- ・気候は、日本海側の影響が強く、冬季には除雪作業が必要となる積雪寒冷地である。

- ・地質は、深成岩の割合が著しく高く透水性・通気性にすぐれた肥沃な土壌であるため、林地に適している。
- ・自然条件が木材育成に適し、県下有数の林業地になっており、平成27年度の市有林における主な搬出間伐材積は、ヒノキ 186.4 m<sup>3</sup>、スギ 110.3 m<sup>3</sup>、マツ 3.5 m<sup>3</sup> となっている。
- ・豊かな森林資源と雄大な山景と水景に恵まれており、冬には美しい雪景色を享受することができるとともに、標高差が大きいことから、固有の気候を利用した農産物等の開発が期待できる。
- ・8世紀頃から製鉄作業が盛んに行われ、豊富な水の恩恵を受けていた。その製鉄作業のために作られた当時の水路が、現在の農業用水路として、今なお利用されている。
- ・平成5年度から、水と森の風景のある魅力的な地域づくりを進め、平成8年3月に国土庁（現在の国土交通省）から「水の郷百選」に認定される。
- ・黒木キャンプ場は、四季折々の美しい自然を満喫することができる自然をそのまま残したキャンプ場であり、年間約13,400人の利用者がある。
- ・降雨量や降雪量が多く、膨大で良質な地下水に恵まれ、ミネラルやラドン等の鉱物質成分を含んだ水（冷泉）が存在し、百々温泉として「めぐみ荘」で営業を行っている。
- ・地域の中心部には加茂支所をはじめとして、公民館、図書館、文化センター、小学校などの公共施設が集積しており、加茂地域の行政、文化活動の拠点となっている。
- ・西加茂地区には、加茂町スポーツセンターが整備され、スポーツ活動やレクリエーション活動の拠点となっている。
- ・CATV整備により加茂地域全域でインターネットに接続することができる環境にある。



国土庁認定楯

### (3) 人口の推移

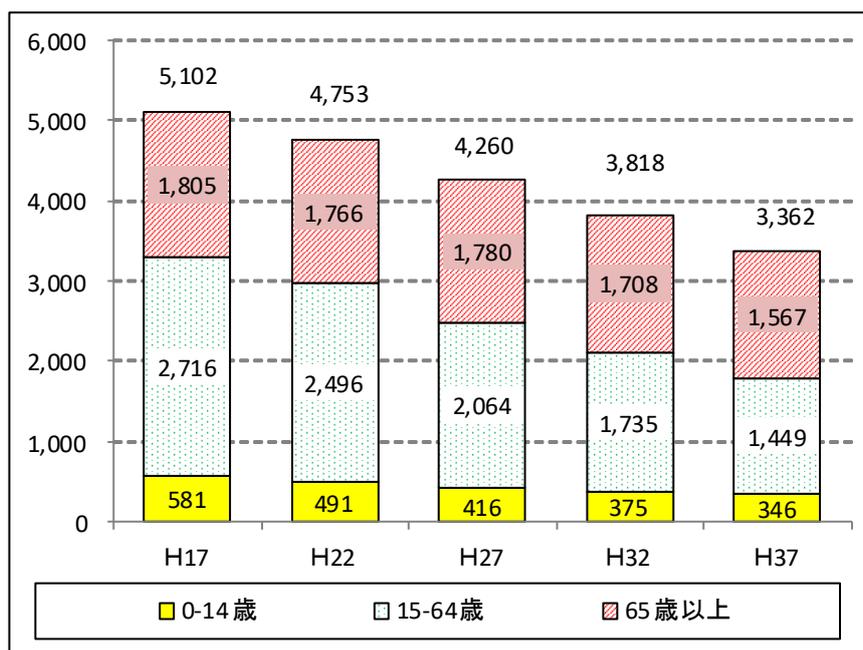
- ・加茂地域における平成30年4月1日の人口は、4,196人（住民基本台帳）であり、市全体の約4.1%を占めている。（津山市全体101,598人）
- ・国勢調査結果では、平成17年は5,102人、平成27年には4,260人となっており人口の減少傾向が顕著である。
- ・平成27年国勢調査によると加茂地域の高齢化率は41.8%であり、津山市全体の高齢化率28.8%と比べて非常に割合が高くなっている。

### 加茂地域の人口推移（資料：国勢調査）

（単位：人、％）

		H17	H22	H27	H32	H37
0-14歳	人口	581	491	416	375	346
	構成比	11.4	10.3	9.8	9.8	10.3
15-64歳	人口	2,716	2,496	2,064	1,735	1,449
	構成比	53.2	52.5	48.5	45.4	43.1
65歳以上	人口	1,805	1,766	1,780	1,708	1,567
	構成比	35.4	37.2	41.8	44.7	46.6
合計	人口	5,102	4,753	4,260	3,818	3,362

（単位：人）



※H32、H37の人口・高齢化率は、H29.8.1現在の人口・世帯数を基に『おokayama生き生き創造シート』により予測をしたもの。

## 2. まちづくりの方針

### (1) 地域生活拠点づくりの推進

#### ① 現状と課題

- ・加茂支所を中心に半径500m以内に、加茂町公民館、加茂町図書館、加茂町文化センター、加茂郵便局、中国銀行加茂支店、JAつやま加茂支店、作州津山商工会加茂支所、加茂小学校、加茂中学校、加茂町福祉センター、病院等の公共施設などが集まって地域生活拠点を形成している。
- ・高齢化が進む中、一人暮らし世帯も増加し、家族に代わる見守りや、災害時に備えた対策が必要である。
- ・福祉の分野においては、施設を中心とした福祉から、地域を中心に個人の自立した生活を総合的に支援する福祉への転換が図られる中で、すべての人が、助け合いながら、その人らしく、自立し、安全・安心に暮らせる地域づくりを進めていくことが必要となっている。
- ・I・J・Uターン者を受入れる雇用先や住居が不足している。
- ・人口減少と高齢化が急速に進んでおり、空き家の増加に伴い危険な特定空家等が発生するなど、地域コミュニティや地域経済の衰退が懸念される。
- ・少子高齢化の急激な進展、核家族化などにより、家庭や地域のつながりが希薄化し、身近な住民同士の交流やコミュニケーション不足が指摘されている。
- ・困った時に相談する相手がいない人や、助けが必要な状態にあることが把握されていない人を支えるための仕組みづくりが求められている。
- ・地域には、小学校と中学校が各1校ずつあり、阿波地域も同学区である。
- ・平成30年度末に公立の加茂幼稚園・公郷保育所を閉園し、平成31年度から地域の幼児教育・保育の受け皿として、民間の加茂保育園が保育所型認定こども園へ移行する。
- ・CATVの整備網により、テレビ難視聴対策と、ブロードバンドインターネット環境の土台作りは一段落したが、今後はそれをいかに維持し、活用していくかを考える必要がある。

#### ② 施策の方向

- ・加茂支所周辺の地域生活拠点の維持・向上に努める。
- ・加茂町文化センターや加茂町公民館などを活用した文化活動やコミュニティ活動を促進する。
- ・平成31年11月開庁予定の新築加茂支所庁舎と加茂町公民館を複合化させることで、市



旧・加茂支所

民の利便性の向上を図る。

- ・ I・J・Uターンによる移住者の受け入れを推進するため、地域の経済や生活機能、にぎわいやコミュニティを持続させるとともに、快適な生活環境を維持する。
- ・ 平成27年度津山市空家等実態調査によると加茂地域には316棟の空き家があり、その内小規模な修繕により再利用が可能な空き家が45棟ある。

その空き家を有効に活用して、居住を誘導することで地域の人口の維持を図る。

- ・ 加茂地域内の空き家を有効に活用するため、具体的な情報の収集及び発信に努める。
- ・ 地域住民が様々な課題について話し合い解決していく地域運営組織や小地域ケア会議を設立し、住民相互の連携を深めて活力ある地域づくりの推進と強化を図る。
- ・ 「めざせ元気！！こけないからだ講座」などを普及拡大することにより、地域で高齢者が元気で孤立することのないよう、地域ぐるみの介護予防活動を推進する。
- ・ 平成31年4月より加茂地域には、保育園・小学校・中学校がそれぞれ1校となるため、多くの子どもが中学校卒業までほとんど同じ仲間と過ごす。この特性を活かし、各校が連携を密にして、子ども達の不安や負担の軽減を図りながら、一貫した教育を行う。
- ・ C A T V網を有力な地域通信網と位置づけ、いつでも・どこでも・だれでも I C Tの恩恵を受けることができる社会の実現を図り、少子高齢化や過疎化といった地域の様々な課題を解決するため、高齢者が使いやすい画面操作で提供するサービスを工夫し、医療・福祉、教育等、生活に身近な分野において、一層の I C Tの利活用を推進する。



加茂町公民館

## (2) 自然環境の保全、環境負荷の低減

### ① 現状と課題

- ・ 旧加茂町は、水と森の風景のある魅力的な地域づくりを進め「加茂地域」を全国に発信してきた。
- ・ 多様な公益的機能を有する豊かな森林や、氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されている美しい自然環境に恵まれている。

- ・その豊かな自然環境を観光資源として有効活用を図っている。
- ・河川の水量が少なくなり、雑草・雑木が生い茂っている。
- ・平成29年度末の水洗化率は73.0%と未整備地域が残されている。



トヤの夫婦滝

## ② 施策の方向

- ・豊かな森林資源や水資源を利用して、小水力等でエネルギーを生み出し、利用するための研究を進め、環境負荷の低減を図りながら、水と森の風景のある魅力的な地域づくりを進める。
- ・観光資源としても恵まれた自然環境と豊富な自然資源の保全を図りつつ各施設及びアクセス道路の維持管理に努める。
- ・水の郷百選に認定された水環境を保つため、河川の浚渫促進を県に強力に働きかける。
- ・さらなる下水道の整備及び合併浄化槽設置を推進し、水質汚濁の防止に努めながら、自然環境の保全に努める。



清流（倉見川）

## （3）産業の振興

### ① 現状と課題

- ・加茂地域の農用地については、昭和49年度から平成4年度までの19年間の歳月をかけ、ほぼ全域にわたってほ場整備が完了し、実施面積は468.1haとなっている。これらの優良農地の保全を図るとともに、有効利用を促進する必要がある。しかしながら、農業後継者の不足、農業担い手の高齢化などにより耕作放棄による農地の荒廃が年々進んでいる。
- ・近年、山林の中のエサ不足等により、イノシシやシカなどの鳥獣が作物や田面、畦畔などを荒らす被害が増加している。また、ツキノワグマ等の出没情報が急増している。
- ・昭和45年に始まった減反政策の転作作物として、昭和63年度よりシキ

ミと西条柿の産地化を決定し、栽培農家の積極的な確保を行ってきたが、高齢化、後継者不足により減少の傾向にある。

- ・ 標高1,000mを超える五輪原農用地をはじめ、特色ある気候・地形の地域特性を生かした高冷地野菜栽培などに取り組んでいるが、平成7年をピークに販売量・販売額ともに減少している。
- ・ 加茂地域全体の約9割の面積を豊かな森林が占め、その内の8割にあたるヒノキやスギの人工造林の生産機能を高めるため、治山・治水対策をはじめ、森林基幹道などの基盤整備を進めている。
- ・ 木材価格の低迷により、林業家の所得が低下している。

## ② 施策の方向

- ・ 鳥獣被害に対しては、国・県・市による電気柵等の設置補助制度を有効に活用し、被害の防止に努めるとともに、鳥獣被害対策実施隊による駆除により、個体数の減少に取り組んで行く。
- ・ 耕作放棄による農地の荒廃を防ぐため、離農者等に対して農地中間管理事業の活用を積極的に進め、担い手への農地利用集積・集約化を図る。
- ・ 若い世代の認定農業者や担い手を育成するとともに、営農団体等の組織化を推進し生産性の効率化と所得の向上に努める。
- ・ 標高1,000mを超える五輪原農用地の特色ある気候・地形を生かした高冷地野菜など特産品の研究を行う。
- ・ 加茂地域の豊かな森林資源を活用するため保育管理を計画的に進め、森林を「緑のダム」として育成し優良材の生産を図る。また森林基幹道などの基盤整備にも取り組む。
- ・ 森からの恵みや森の働きを再認識するとともに、津山市森づくり条例に基づき、森林の有する多面的機能の持続的な発揮を重視した新たな森づくりの展開を図る。
- ・ 農林業を経済成長のエンジンと捉えて、産業の担い手となる若者の働く場を創出する。



五輪原農用地

## (4) 地域生活拠点と小さな拠点との連携強化

### ① 現状と課題

- ・加茂地域には、主要地方道津山智頭八東線・津山加茂線、一般県道倉見齊の谷線・加茂用瀬線、市道西加茂29号線などの幹線道路が走っている。
- ・急速な高齢化に伴い、自家用自動車を運転できない高齢者が増加し、買い物難民、交通弱者となる危険性が增大している。

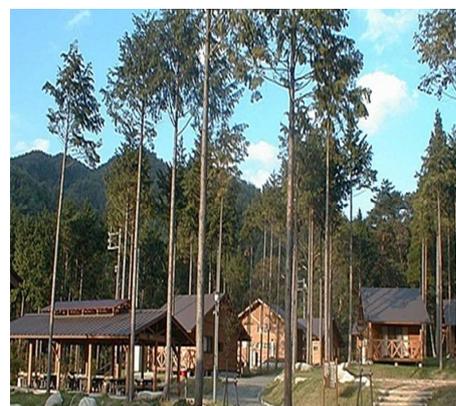
### ② 施策の方向

- ・道路については、主要地方道津山智頭八東線・津山加茂線、一般県道倉見齊の谷線・加茂用瀬線、幹線市道（西加茂29号線など）の整備を促進する。
- ・利用者の意見も踏まえながら、ごんごバスや加茂地域巡回バスの利便性の向上を図り、JR因美線の利用も含めて、公共交通の利用促進に努める。
- ・公共交通の積極的な利用促進により、減便や廃止を防止し、中心市街地や医療機関へのアクセス性の維持や利便性の確保に努める。
- ・買い物難民を防ぐため、阿波地域で実証している宅配、又は移動販売方式の導入を研究する。

## (5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり

### ① 現状と課題

- ・氷ノ山後山那岐山国定公園に指定された豊かな自然環境を有しており、黒木キャンプ場、レイクパーク加茂、ウッディハウス加茂などに多数の人々が訪れているが、夏季の利用が主であり、冬季においては十分な活用となっていない。
- ・加茂町スポーツセンターには、総合グラウンド、ソフトボール場、テニス場、体操練習場、体育館、プール、ゲートボール場があり地元住民をはじめ多数の人々が利用している。特に体操練習場は、ピット設備を有した体操専用の練習場として平成13年に整備され、京阪神を中心とした大学・高校などの合宿に利用されている。
- ・毎年4月の第3日曜日に、加茂町スポー



黒木キャンプ場



総合グラウンド

ツセンター総合グラウンドを主会場に、津山加茂郷フルマラソン全国大会が開催され、全国から多数のランナーが参加している。

## ② 施策の方向

- ・ 四季を通じた観光を振興するため、関係機関やホームページなどを活用し、より詳細な情報を発信することで、観光客の誘客に努め、黒木キャンプ場、レイクパーク加茂、ウッディハウス加茂など既存の観光資源の有効利用を図る。
- ・ 市民手作りのマラソンとして、好評を得ている津山加茂郷フルマラソン全国大会を継続することで、加茂地域の魅力を発信する。
- ・ スポーツ・レクリエーションの拠点施設である加茂町スポーツセンターは、今後も適正で安全な維持管理を行い利用促進を図る。

## (6) 生涯学習活動の振興と高齢者の生きがい対策

### ① 現状と課題

- ・ 加茂町公民館、加茂町文化センターを拠点として、公民館講座、生涯学習講座、加茂文化協会会員によるさまざまな生涯学習が実践されているがメンバーの固定化や高齢化の傾向にある。
- ・ 地域住民総参加で歴史ある加茂の文化を守り育て、次世代に引き継ぐ文化の祭典として加茂町文化祭が開催されている。
- ・ 高齢者の生きがいと健康の増進、交流の場として、加茂町福祉センター、高齢者総合福祉施設めぐみ荘を開設している。



加茂町文化祭

### ② 施策の方向

- ・ 生涯学習活動のさらなる推進を図り、人材育成に努める。
- ・ 加茂町公民館、加茂町文化センターや加茂町図書館などの既存施設の有効活用と学習環境の整備に努め社会教育施設の利用促進を図る。
- ・ 加茂町文化祭や加茂文化協会の活動など生涯学習に親しむ環境づくりを推進し、加茂地域に根差した生涯学習活動を支援する。

- ・加茂町福祉センター及び高齢者総合福祉施設めぐみ荘については、指定管理者制度を活用し、利用促進を図る。また、さらなる活用を進めるため、施設のあり方についても研究を行う。



めぐみ荘

## (7) 歴史遺産の保全・活用、景観形成の方針

### ① 現状と課題

- ・県重要無形民俗文化財に指定されている「物見神社の花まつり」があり、花の作成や餅づくりなどに大勢の大学生が参加し地元の人々と共に花まつりを盛り上げている。
- ・横穴式石室では、県北最大規模を誇る「万燈山古墳」がある。
- ・秘境駅として知られる「JR知和駅」や迫力ある円柱橋脚がそびえる「松ボウキ」の橋梁がある。また、県最北端の駅である「JR美作河井駅」には、貴重な近代化遺産である手動式の「転車台」が現存し、多数の鉄道ファンが訪れている。
- ・県下最大の中世山城である「矢筈（高山）城跡」は、県指定史跡に指定され矢筈城趾保存会により登山道・周辺史跡整備が行われている。
- ・パワースポットとして注目を浴びている「サムハラ神社奥の宮」には、北海道から沖縄まで全国各地からお参りに訪れている。



JR美作河井駅「転車台」



サムハラ神社奥の宮

### ② 施策の方向

- ・各種伝統行事及び歴史遺産は貴重な文化財として将来にわたり保全し活用に努める。
- ・地域の歴史や伝統・文化は地域全体の貴重な共有財産であり、ホームページなどを活用し、地域の魅力を市外へより詳細に発信することで来訪者の増を図り地域の活性化に繋げる。

- ・歴史遺産を紹介する看板や建物の景観整備を行い、魅力ある景観の保全に努める。

## (8) 安全・安心のまちづくり

### ① 現状と課題

- ・平成27年度津山市空家等実態調査によると、加茂地域には空き家が316棟あり、空き家率は13.8%となっており、今後も人口減少や単独世帯の増加が見込まれる中、空き家の増加が懸念される。
- ・空き家の中には、特定空家等地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしているものがあり、こうした空き家は法令等に基づく措置を進めて行くとともに所有者による自主的な除却を支援することが必要である。
- ・良質な空き家は、地域活性化対策として、移住・定住、地域コミュニティ施設などに活用することが求められている。
- ・急速な少子高齢化による担い手不足のため、林地が荒廃している。
- ・加茂地域内には、土石流、急傾斜の崩壊にかかる警戒区域や土石流危険溪流(※1)が多く指定されていることから、台風や大雨などの災害に備えて平素から災害に対する意識の啓発を推進していく必要がある。

※1 勾配が15度以上で土石流発生の危険性があり、人家や公共施設に被害を生じるおそれのある溪流

- ・老朽化していた加茂地域防災行政無線のデジタル化更新整備工事が平成28年度に完了した。
- ・生活道路の除雪については、通勤・通学・通院等に間に合うよう、早朝に実施している。

### ② 施策の方向

- ・空き家が、防災・防犯・景観など周辺の住環境に悪影響を与えないよう、生活環境の保全を図り、あわせて空き家の利活用を促進するなど、津山市空家等対策計画に基づき総合的な対策を推進する。
- ・林地の荒廃を防ぎ保全を図るため、森林の適正な管理を促進する。
- ・防災ハザードマップ等により、地域住民に危険箇所等についての周知・啓発を行い、平常時から地元町内会等による自主的な防災対策を積極的に推進する。
- ・がけ崩れ、土石流などによる災害から市民の生命と財産を守るため、防災行政無線を利用して、災害発生状況、速やかな避難準備情報、避難勧告、避難指示等の確な情報を市民に提供し、自主的な「命を守る避難行動」に繋げる。

- 安全な交通環境づくりのために、交通事故多発地点など危険箇所の道路改良や交通安全施設の整備を促進する。
- 除雪事業の円滑な推進のため、オペレーターの確保や、未稼働期間を含め除雪機器の維持・管理に努める。

## 加茂地域アクションプラン

施策区分	事業名	事業内容
(2) 自然環境の 保全、環境負 荷の低減  (3) 産業の振興	切り捨て間 伐材の利用 促進	<p>搬出間伐促進事業の事業内容の拡充等により森林所有者の生産意欲の向上を図るなど適切な森林整備に繋げる。</p> <p>森林経営管理法に基づく新たな森林管理システムに基づき、森林所有者の高齢化等でやむを得ず放置された森林の経営管理を見直し、放置されていた森林が経済ベースで活用されるよう検討していく。</p>
	林業従事者 の育成	<p>戦後植林された人工林の多くが主伐期を迎えている中、林業従事者の高齢化や減少により、担い手の確保が急務となっており、関係機関と連携して「森づくり」に携わる人材の育成に努める。</p>
	遊休農地対 策	<p>生産者の高齢化や後継者、担い手不足による農地の荒廃、生産基盤の弱体化対策として、農地中間管理事業を活用した担い手農業者への農地の集約化等を進める。</p>
(4) 地域生活拠 点と小さな 拠点との連 携強化  (8) 安全・安心の まちづくり	市道西加茂 29号線及 び東西橋改 良	<p>主要地方道津山加茂線のバイパス道路として、年次的に事業に取り組む。</p>
(8) 安全・安心の まちづくり	除雪体制の 整備・維持	<p>加茂地域は、積雪寒冷特別地域に指定されており、冬季における雪害防止と円滑な交通確保のための除雪作業は欠かすことのできないものとなっている。</p> <p>今後も、除雪機械の計画的な更新を行い、車両の維持管理を適切に行うことで、地域の安全・安心を確保する。</p>

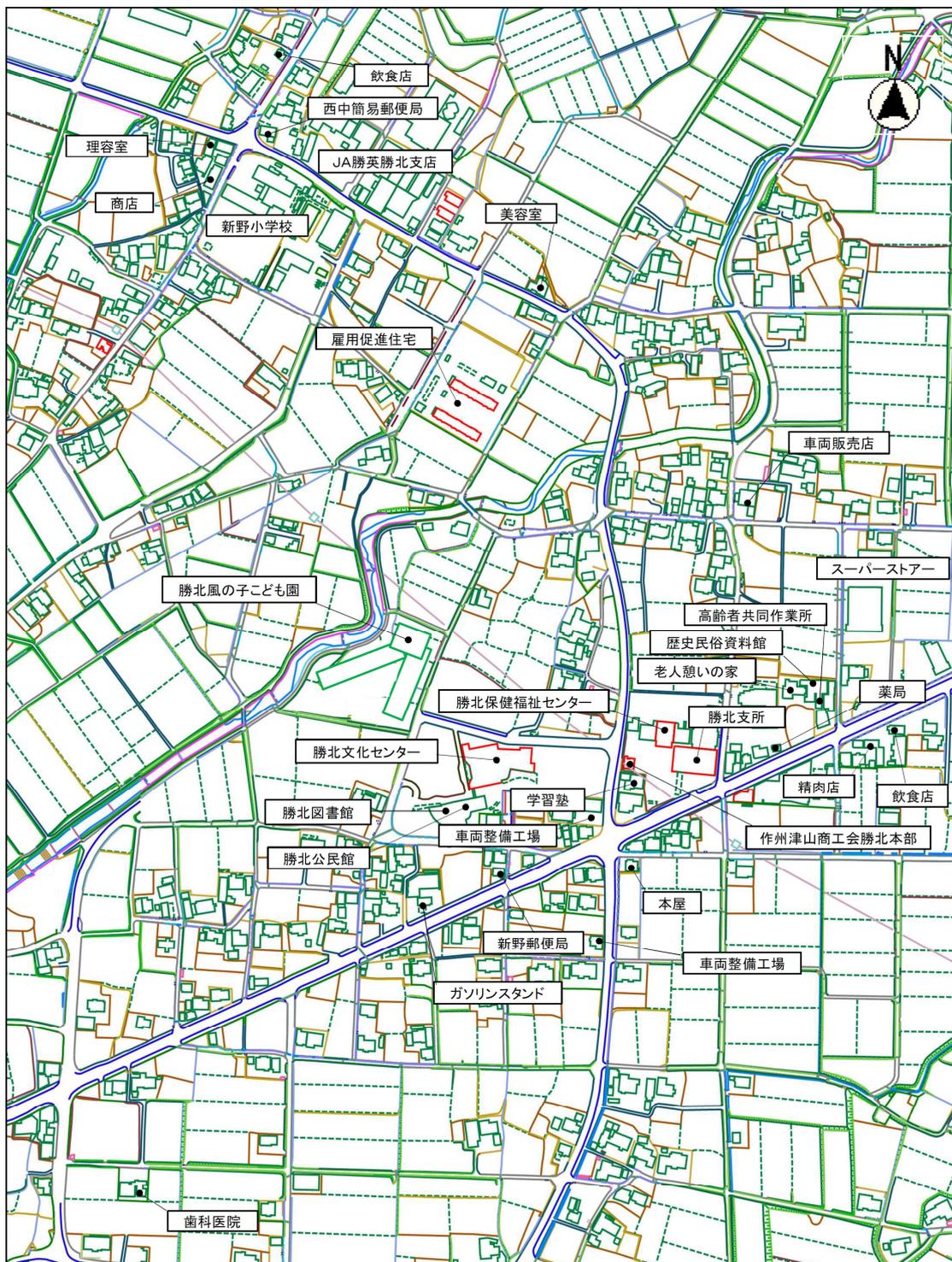
# 勝北地域振興ビジョン



津山市勝北支所



## 勝北地域の地域生活拠点周辺図



縮尺 1 : 5000



## 1. 勝北地域の概要

### (1) 沿革

- ・明治22年 新野村、広戸村、勝加茂村が設置される。
- ・昭和30年 新野村、広戸村、勝加茂村の一部が合併し勝北町となる。
- ・平成17年2月28日 津山市、加茂町、阿波村、勝北町、久米町が合併し、現在の津山市となる。

### (2) 地域の特性等

- ・勝北地域は津山市の北東部に位置し、那岐山を主峰とする山塊の広戸仙（標高1,115m）山形仙（標高791m）の南麓に広がる丘陵と、山並みの背後の奥津川と、中央部を流れる広戸川の盆地が広がるのどかな田園地帯である。
- ・総面積は44.90km<sup>2</sup>で、そのうち約6割を森林原野が占めている。
- ・東部には、奈義町にまたがる陸上自衛隊日本原演習場があり、年間を通じて自衛隊による実弾射撃訓練など様々な訓練が実施されている。
- ・県下最大のため池である塩手池をはじめとし、ため池が多数あり、早くから圃場整備された田畑が広がる。
- ・勝北地域は、昔から「風の吹く町」として知られ、瞬間風速40mから50mに達する「広戸風」が吹き、農業作物・家屋損壊等、被害が発生し、人々はこの局地風と戦ってきた。
- ・地域の中心部には勝北支所をはじめとして、勝北公民館、勝北文化センター、勝北図書館、勝北保健福祉センターなどの公共施設が集積しており、勝北地域の行政、文化活動の拠点となっている。
- ・西部には、総合スポーツ公園が整備され、スポーツ活動やレクリエーション活動の拠点となっている。



勝北支所



風まくら

（那岐連山に現れる巨大な雲「風まくら」ができると広戸風が吹くと言われている。）

### (3) 人口の推移

- ・勝北地域における平成30年4月1日の人口は、6,175人（住民基本台帳）であり、市全体の約6.1%を占めている。（津山市全体 101,598人）

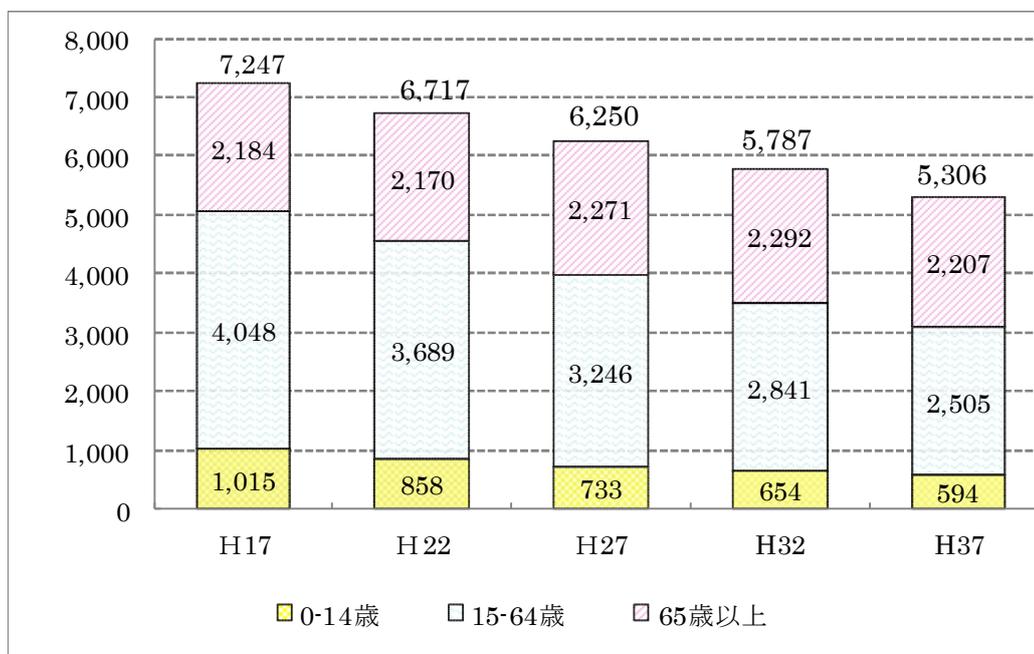
- ・国勢調査結果では、平成17年は7,247人、平成27年には6,250人となっており人口の減少傾向が顕著である。
- ・平成27年度国勢調査によると勝北地域の高齢化率は36.3%であり、津山市全体の高齢化率28.8%と比べて割合が非常に高くなっている。

### 勝北地域の人口推移（資料：国勢調査）

（単位：人、％）

		H17	H22	H27	H32	H37
0-14歳	人口	1,015	858	733	654	594
	構成比	14.0	12.8	11.7	11.3	11.2
15-64歳	人口	4,048	3,689	3,246	2,841	2,505
	構成比	55.9	54.9	52.0	49.1	47.2
65歳以上	人口	2,184	2,170	2,271	2,292	2,207
	構成比	30.1	32.3	36.3	39.6	41.8
合計	人口	7,247	6,717	6,250	5,787	5,306

（単位：人）



※ H32、H37の人口・高齢化率は、H29.8.1現在の人口・世帯数を基に『おかやま生き生き創造シート』により予測をしたもの。

## 2. まちづくりの方針

### (1) 地域生活拠点づくりの推進

#### ① 現状と課題

- ・勝北地域では町内会を中心に、福祉、防災、スポーツ、納涼祭等地域活動が行われている。しかし、少子高齢化による人口減少の進行や生活様式の多様化などにより、地域活動への住民の参加が減少しており、地域の担い手不足や地縁的なつながりの希薄化のため、地域活動が困難な状況になりつつある。
- ・福祉の分野においては、施設を中心とした福祉から、地域を中心に個人の自立した総合的に支援する福祉への転換が図られる中で、すべての人が、助け合いながら、その人らしく、自立し、安全・安心に暮らせる地域作りを進めていく事が必要となっている。
- ・少子高齢化の急激な進展、核家族化などにより、家庭や地域のつながりが希薄化し、身近な住民同士の交流やコミュニケーション不足が指摘されている。困った時に相談する相手がいない人や、助けが必要な状態にあることが把握されていない人を支えるための仕組みづくりが求められている。
- ・幼稚園希望者の需要を地域内で満たすことができるよう、勝北風の子こども園を平成28年度から幼保連携型認定こども園に移行している。
- ・生まれ育った故郷から進学や就職を期に都会へ移住した人が、就職や退職を期に再び故郷へ移住したり、就職を期に故郷にない要素を求めて移住する人（I・J・Uターン者）を受け入れる雇用先や住居が不足している。
- ・地域づくりにとって最も重要な事は、地域の人材である。地域を担う人材（リーダー）づくりを行う必要がある。

#### ② 施策の方向

- ・防犯防災・教育・歴史伝統文化の継承・地域産業など、地域の状況に応じた様々な課題について地域住民が話し合い、一人一人が力を発揮しながら取り組み解決していく地域運営組織の設立を行う。一人暮らしの方、高齢世帯、寝たきりの方など地域の現状を確認できる「支え合いマップ」や「緊急連絡カード」を作成し、地域での見守りや支え合いを行い、「早期発見・見守り」や「ふれあい・支え合い」などの福祉目線で住民と専門職が定期的に話し合うことにより地域内の情報を共有し、住民が安心して快適に暮らせるよう小地域ケア会議を設立する。住民相互の連携を深めて活力ある地域づくりの推進と地域力の強化を図る。
- ・子育てに関する精神的不安や、時間的な制約等様々な問題に対応するため、地域版親子ひろば「すくすく勝北」「わいわいひろば」を託児ボランティア勝北「あゆみの会」等関係機関と連携し、子育てに関する正しい知識の習得

- や、子どもの発育、子育てに関する相談、保護者同士が気軽に情報交換ができる場を整備し、地域ぐるみで保護者の子育て支援を行う。
- ・地域で子育て世代の保護者が楽しく子育てができるよう、関係機関と連携し、親同士の子育ての情報交換等を行っている自主グループ「なかよし・にこにこクラブ」の支援を行う。
  - ・地域の子育て支援拠点として、「勝北風の子こども園」の地域子育て支援センターを活用し、就学前の幼児が親子で自由に遊ぶことのできる場やイベント等、交流の場の提供や、子育てに関する相談への対応等による、子育て支援の推進を行う。
  - ・「めざせ元気!!こけないからだ講座」などを普及拡大することにより、地域で高齢者が元気で孤立することのないよう、地域ぐるみの介護予防活動を推進する。
  - ・勝北地域の魅力を発信し、若者世代や退職者等に空き屋の活用等による移住定住の促進に努める。
  - ・勝北地域は、市街地や隣接する勝央町等へのアクセス道路が整備されていることから、移住しやすい住環境の整備を行ない、定住促進を推進し、地域の人口減少の抑制を図る。
  - ・地域づくりにおいて、地域を担う人材育成は、大変重要である。市の各部署が行っている様々な研修や講座を活用し、人材の育成を行う。

## (2) 自然環境の保全、環境負荷の低減

### ① 現状と課題

- ・勝北地域は、奥津川溪谷、広戸仙、山形仙、ウッドパーク声ヶ峠や塩手池をはじめとする多くのため池など自然に恵まれた地域である。
- ・平成29年度末の水洗化率は75.7%と未整備地域が残されている。

### ② 施策の方向

- ・豊かな自然と水辺環境を守るため、公共下水道の整備や公共下水道が整備されない地域への合併浄化槽の普及による水質汚濁の防止に努める。



ウッドパーク声ヶ峠

### (3) 産業の振興

#### ① 現状と課題

・勝北地域の基幹産業は農業である。緩やかな丘陵地の勝北平野が育んできた農地は、昭和41年から生産基盤整備事業に着手し、足掛20年の歳月をかけほぼ全域にわたってほ場整備され、優良農用地へと生まれ変わった。その農用地は有効に活用され、水稻を核として酪農・肉用牛・大豆・麦・露地野菜を組み合わせた複合経営が中心に行われてきた。

・減反政策転作物として、勝英地域は黒大豆の栽培に取り組み「作州黒」というブランド豆として出荷し、その生産量は全国上位を占めている。

最近は大粒で高品質の黒大豆枝豆も人気を博している。



黒大豆「作州黒」

・生産農家が抱える課題は多く、低所得による若者の農業離れ、高齢化による後継者不足、それに伴う耕作放棄地の増加、担い手不足、鳥獣による農作物被害の増加等農業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあり、大きな転換期を迎えている。

・勝北地域の農産物・特産品等の直売施設として、平成27年に公設民営の勝北マルシェ「ほほえみ彩菜」が開設された。

・勝北地域の工業は、中小規模の繊維・縫製・鉄鋼業・弱電関係が中心であるが、平成4年に日本原工業団地が立地された。

・勝北地域の約6割(2,518ha)の面積を森林原野が占めている。人工林の多くはヒノキの植林地となっている。市有林については、森林組合に管理を委託しているが、町内会や個人が所有している森林については、担い手減少・作業員の高齢化や木材価格の長期低迷により、森林の手入れ不足が生じている。

#### ② 施策の方向

・農地の果たす役割は米や野菜等の生産の場としてのみならず、国土の保全、水源涵養等多面的機能を有していることから、多様な取り組みを継続して行う必要がある。

・農業振興地域においては、耕作放棄による農地の荒廃や乱開発を防ぎ、優良農地の保全と有効利用を促進する。

・離農者に対して農地中間管理事業の活用を積極的に進め、担い手への農地利用集積・集約化を図る。

- ・若い世代の認定農業者や担い手を育成するとともに営農団体等の組織化を推進し、生産の効率化と所得の向上を図る。
- ・勝英地域では黒大豆の生産に取り組み「作州黒」ブランドとして出荷しているが、黒大豆以外の勝北地域の特色ある特産品をJA勝英、農業普及指導センター等と連携し開発に努める。
- ・平成27年に開設された公設民営の農産物直売施設、“勝北マルシェ「ほほえみ彩菜」”の有効利用と充実を図り、農産物・特産品等の販売を促進することで地域の活性化につなげる。
- ・約50年間続いたコメの生産調整が、平成30年度に廃止されたことから、今後の農業政策の動向を注視しながら、JA勝英等関係機関と協議を重ね柔軟な対応を行っていく。
- ・イノシシやシカなどによる農作物被害の鳥獣被害対策として実施している電気柵等の設置補助制度の有効活用と、鳥獣被害対策実施隊の活動を広報することにより、農作物被害の軽減に努める。
- ・林業従事者の高齢化、後継者不足、若者の林業に対する関心の低下などによる山里の管理の深刻化に対し、若者への林業に対する関心を深めるため、林業インターンシップ（緑の雇用制度）の活用や、林業に関するイベント等による啓発を行い、森づくりに携わる人材の確保や育成を図る。



勝北マルシェ「ほほえみ彩菜」

#### (4) 地域生活拠点と小さな拠点との連携強化

##### ① 現状と課題

- ・勝北地域の中央部を東西に国道53号が横断し、国道沿いに公共施設、文化施設、商業施設等が立地している。
- ・地域の高齢化に伴い、高齢者の移動手段としての公共交通の重要性が増大している。

##### ② 施策の方向

- ・国道沿いの東部には、金融機関・商店・医療福祉施設があり、中央部には支所を中心に公民館・図書館・文化センターがあり、西部には、スポーツ公園がある。それぞれの地域を、高齢者も含めて利用者が利用しやすいよう、公共交通機関の整備や利用啓発等を検討する必要がある。

## (5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり

### ① 現状と課題

- ・昭和44年に氷ノ山後山那岐山国定公園に指定された那岐連峰は、勝北地域の北部にあり、風光明媚で美しい自然環境に恵まれたところである。その豊かな自然環境を観光資源として位置づけ、有効活用を図っている。すばらしい眺望と希少高山植物がある広戸仙・山形仙、森林浴と癒しのスポット「ウッドパーク声ヶ峠」、津川ダム直下にあり森林と溪流のリゾート地「奥津川ラビンの里」、那岐連峰が静かな湖面に映る「塩手池公園」等、四季を通じて多数の人々が訪れ、自然とのふれあいを楽しんでいる。
- ・国定公園内に群生する紅ドウダンツツジなど希少樹木や檜等がシカの被害にあい、枯れている樹木が多く見られる。
- ・勝北総合スポーツ公園は、スポーツ・レクリエーションの拠点施設として平成3年に新設した。自然木などを活用した緑の多い公園で地元住民をはじめ多数の人々が利用している。特にテニスコート、流水プール、多目的広場、野球場、子どもの丘等の利用頻度は高く、様々なイベントも行われている。しかし、施設がオープンして28年が経過し、各施設が老朽化している。また、公園面積（17.5ha）も広く、維持管理に課題がある。
- ・津山市ターゲットバードゴルフ場が塩手池湖畔周辺にあり、手軽にできるニュースポーツとして、近年人気があるターゲットバードゴルフを市民が楽しんでいる。



奥津川ラビンの里



勝北総合スポーツ公園

### ② 施策の方向

- ・勝北地域は、風光明媚で豊かな美しい自然環境が主な観光資源である。その自然環境を活かし、年間を通じて自然を満喫できる総合的な自然公園として、積極的な利用促進を図る。
- ・紅ドウダンツツジ等希少樹木をシカからの被害を防ぐため、県、地域住民など関係者と連携を図り保護活動に努める。
- ・関係機関やホームページ等を活用し、より詳細な情報を発信することで登山観光客等の誘客に努める。
- ・スポーツ・レクリエーションの拠点である勝北総合スポーツ公園は、適正で

安全な維持管理を行い、利用促進を図る。

- ・津山市ターゲットバードゴルフ場では、全国大会も開催されており、情報発信に努め、利用者の促進を図る。
- ・田舎暮らし体験をしたい人のために、農作物等の収穫や、収穫物を利用した加工品づくり等様々な体験ができる魅力的なプログラムを提供する滞在型の農家民泊を検討し、観光客の集客や、都市部からの定住促進に努める。



津山市ターゲットバードゴルフ場

## (6) 生涯学習活動の振興と高齢者の生きがい対策

### ① 現状と課題

- ・近年の情報技術の高度化、国際化、生活水準や教育水準の向上、自由時間の増大等を背景に、市民の生涯学習に対する意欲が向上している。
- ・核家族化と高齢化が進むにつれ、高齢者が住みなれた地域で健康でいきいきといつまでも暮らしていくためには、生きがいづくり活動が必要である。

### ② 施策の方向

- ・生涯学習活動の振興として、勝北公民館、勝北文化センターを利用した公民館活動や文化協会活動をはじめ、「文化のまちづくり事業」で発足した市民ミュージカルなど様々な生涯学習活動の推進を行い、拠点施設である「ハートピア勝北」のさらなる利用促進を図る。
- ・地域の教育力を活かし、地域の方に講師を依頼し、伝統文化の継承活動や、放課後等を利用した体験活動の「元気ZZひろば」等を開催する。これからの勝北地域を担っていく青少年を心豊かにたくましく育てるため、青少年健全育成活動の推進を図る。
- ・地域の活性化を目的に平成8年に完成した「勝北陶芸の里工房」では、陶芸を通じて市民や世代間の交流が行えるよう様々な体



元気ZZひろば



勝北陶芸の里工房

験活動を開催し、地域の活性化を図る。

- ・高齢者の生きがいをづくりとして、高齢者が長年にわたり蓄積した知識や経験を活かし、伝統文化の継承活動、青少年の健全育成活動、各地域での各種活動等、地域社会を支え次世代の育成に貢献することにより、生きがいを感じる体制づくりに努める。
- ・現在開催している勝北シルバー大学については、高齢者が生涯学習活動に参加し知識や教養を高めることは、高齢者自身の生きがいをづくりの一つになることから、高齢者のライフスタイルやニーズに応じた内容の充実に努める。

## (7) 歴史遺産の保全・活用

### ① 現状と課題

- ・豊かな自然に恵まれた勝北地域には、先人たちが残した文化財が数多くある。
- ・岡山県重要無形民俗文化財に指定された「新野まつり」をはじめ、各地での祭りなど伝統文化についても、少子高齢化の影響で、後継者不足になりつつある。
- ・郷土の歴史を後世に伝えていかなければならないが、伝承者の高齢化が進み、後継者が育っていない現状である。
- ・勝北支所の前の国道53号の南側に、昭和51年に岡山県重要文化財に指定された、供養塔として建てられた宝篋院塔がある。
- ・昭和12年に新野山形水原で発掘された古墳は、仁徳天皇の寵愛を受けた黒媛の伝説があり、出土した陶棺、勾玉、刀子など貴重な資料は、東京国立博物館に大切に保管されている。



新野まつり

### ② 施策の方向

- ・祖先の残した貴重な文化財や伝統行事を後世に伝え保存していくことは、現代に生きる私たちの責務である。地域固有の伝統文化伝承者、郷土の歴史の伝承者の育成や文化財の保護に努める。
- ・小中学生に、古くから使用されていた生活民具や農具、出土品をはじめ、民俗資料、芸能資料、古文書など、地域の歴史や文化財にふれる機会を提供する。
- ・水原古墳（黒媛塚）は、平成12年に説明板や高木聖鶴先生の歌碑など周辺整備が行



水原古墳（黒媛塚）

われ、遠方からも歴史探訪で人々が訪れるようになった。また、「文化のまちづくり事業」で黒媛伝説にまつわるミュージカル「黒媛物語」も市民作りのミュージカルとして公演され、国民文化祭等での公演も行った。黒媛伝説の魅力ホームページなどを活用し、市内外へ発信することにより、勝北地域の活性化に繋げる。

## (8) 安全・安心のまちづくり

### ① 現状と課題

- ・ 地域の高齢化が進み一人暮らしの高齢者が増加するなか、高齢者が病院や買い物に行くための交通手段として利用していた地域内唯一のタクシー会社が平成27年度末に営業を終了したため、高齢者の緊急時等外出のための交通手段の確保が早急に必要となっている。
- ・ 勝北地域には、陸上自衛隊日本原演習場及びそれを管轄する陸上自衛隊日本原駐屯地が所在しており、一般訓練はもとより、火砲射撃訓練が可能な演習場となっている。このため、実弾射撃演習、ヘリコプターの飛行訓練などによる騒音や振動などの障害が発生している。
- ・ 勝北地域では、昔から局地的に吹く広戸風による被害が発生している。また、最近では熊本地震等各地で地震による甚大な被害も発生しているが、勝北地域も近くを声ヶ峠断層、那岐山断層が通っている。局地的豪雨等も含めてこれら自然災害等に対する防災対策を図る必要がある。
- ・ 合併後、空きスペースとなっている支所など公共施設にある会議室等について有効活用を検討する必要がある。
- ・ 平成27年度津山市空家等実態調査によると、津山市全体の空き家率は7.0%で、勝北地域には空き家が231棟あり、空き家率は8.1%となっており、今後も人口減少や単独世帯の増加が懸念される中、空き家の増加が懸念される。空き家の中には地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしているものがあり、こうした空き家は法令等に基づく措置を進めていくとともに所



勝北地域巡回バス



陸上自衛隊日本原演習場

有者による自主的な除却を支援することが必要である。また、良質な空き家は、地域活性化対策として、移住・定住・地域コミュニティ施設などに活用することが求められている。

- ・近年、特殊詐欺の手口が巧妙化し増加している。特に高齢者を狙った特殊詐欺が増加しているため、高齢者等消費者への啓発活動等対策が必要である。

## ② 施策の方向

- ・特に、勝北地域の高齢者にとって勝北地域巡回バスはなくてはならないものである。勝北地域には中鉄北部バス、ごんごバス勝北線の公共交通機関も運行しており、巡回バスと他の公共交通機関を併用して利用できるよう運行時間等の啓発を行う。また、高齢化社会の進行に向け、今後の地域交通のあり方を早急に検討していく必要がある。
- ・交通手段がない高齢者への往診等を地域内の医療機関へ依頼するなど、対応策を検討していく必要がある。
- ・自衛隊日本原演習場についての様々な障害の軽減対策として、中国四国防衛局などの関係機関・団体と積極的に連携するとともに、周辺住民の理解と協力を得るなかで、自衛隊車両と一般車両が安全に走行できるための狭小道路の整備、実弾射撃訓練やヘリコプターの飛行訓練などによる騒音や振動の軽減、水質汚染など軽減のための水路などの公共用施設整備を進め、演習場周辺地域住民との共存共栄を図る。
- ・防災行政無線を利用し、災害発生状況、速やかな避難準備情報、避難勧告、避難指示等の確かな情報を市民に提供する。
- ・災害が発生した場合は、消防団や自主防災組織、消防署等関係機関等と連携し、速やかな対応を行う。
- ・防災ハザードマップ等により、地域住民に危険箇所等についての周知・啓発を行い、関係機関と連携し、小地域ケア会議や地元町内会等による平常時からの自主的な防災対策を推進する。
- ・地域内の小・中学校と連携し、広戸風等災害に関する防災教育を行い、市民の防災意識の高揚を図る。
- ・支所の空きスペースや、市が所有するコミュニティ施設の有効活用の促進を図るとともに、老朽化した施設もあるため、津山市公共施設再編基本計画に基づき施設の修繕や、関係機関、地元町内会などへの譲渡等検討していく必要がある。
- ・住民の利便性及び安全性の向上を目指して、



ハートピア勝北

生活道路の整備や歩道の整備などを推進する。

- 空き家が、防災・防犯・景観など周辺の住環境に悪影響を与えないよう、生活環境の保全を図り、あわせて空き家の利活用を促進するなど、津山市空家等対策計画に基づき総合的な対策を推進する。
- 近年、特殊詐欺の手口が巧妙化し増加しているため、消費生活センター、警察等と連携し、特殊詐欺に関する情報を防災無線等で情報提供を行い、被害防止に努める。

## 勝北地域アクションプラン

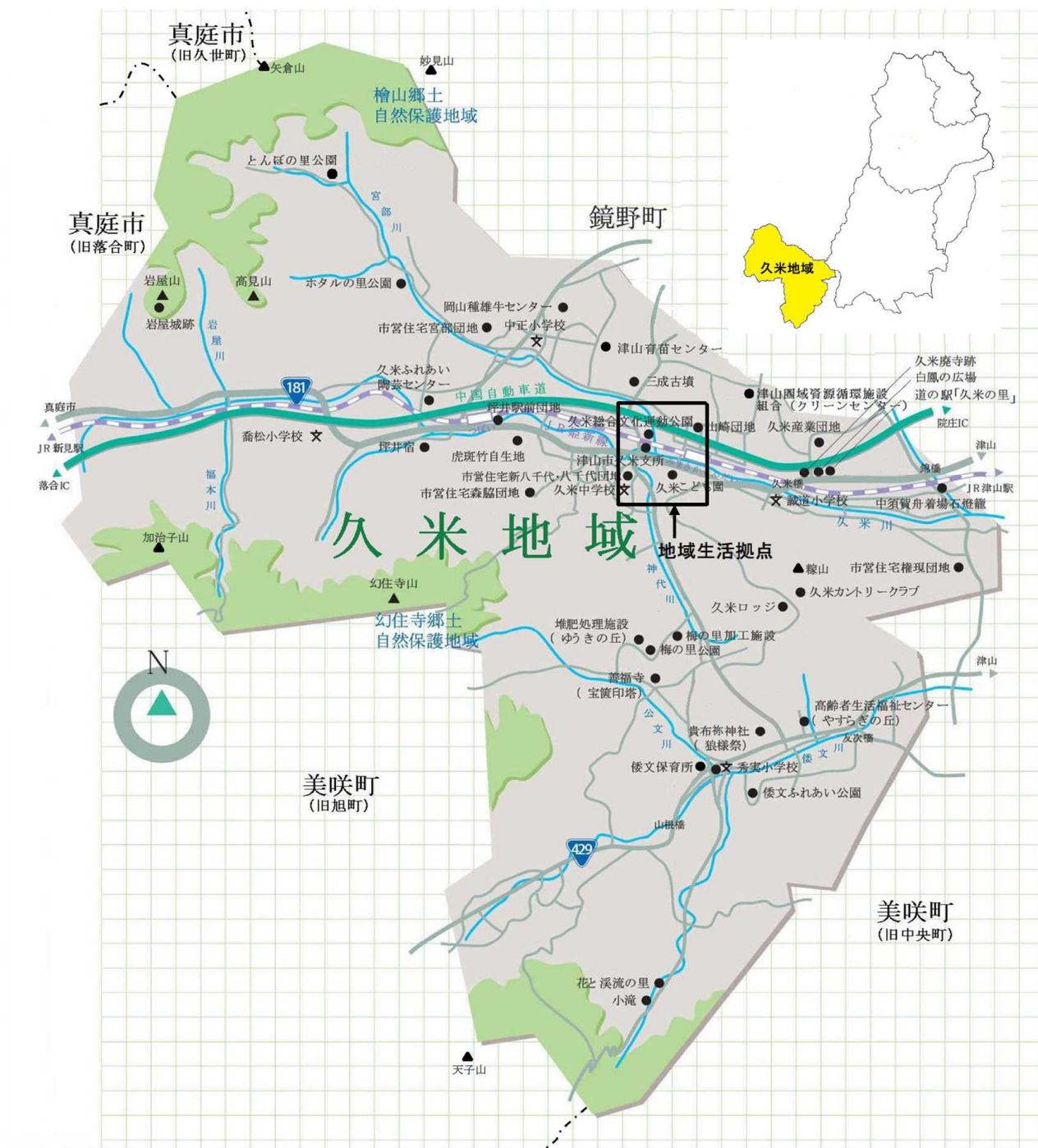
施策区分	事業名	事業内容
(3) 産業の振興	勝北マルシェ「ほほえみ彩菜」機能強化	勝北マルシェ「ほほえみ彩菜」を活用し、農作物や特産品等の販売促進による農業の振興と地域の活性化を図るとともに、生産者と消費者の交流の場やイベント等による集客施設といった、地域の拠点施設として機能するよう、施設の更なる機能強化を検討していく。
(5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり	勝北総合スポーツ公園 利用促進	勝北総合スポーツ公園は、管理棟をはじめ、各施設の老朽化が著しいことから、優先順位を定めて、修繕、改修を行うなど、適正で安全な維持管理に努め、利用促進を図る。
(8) 安全・安心のまちづくり	地域交通の 利便性の検討	高齢者等の交通手段として、巡回バスの利便性向上に努めるとともに小型車両の活用等による新たな公共交通方策を検討していく。
	地域住民の 交通の利便 性と安全性 の向上	演習場周辺地域の安全な通行のため、現在施行している市道日本原・大吉線改良事業の早期完了を目指す。 また、市道工門・市場線歩道整備や市道坂上・原線歩道整備、市道西上・山形線道路改良事業等に年次計画で取り組んでいく。

# 久米地域振興ビジョン

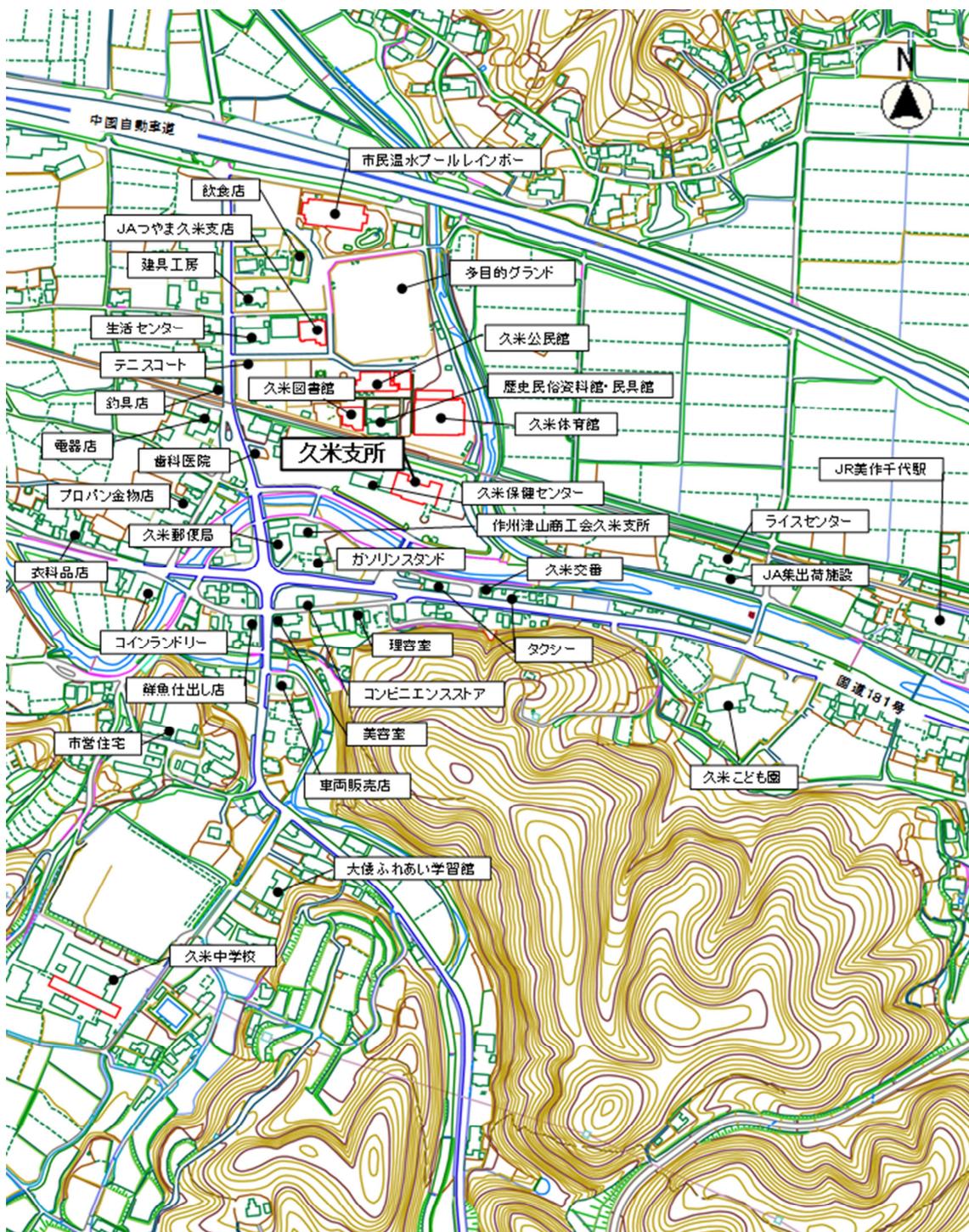


津山市久米支所

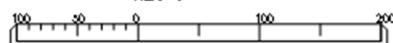
# 久米地域全図



## 久米地域の地域生活拠点周辺図



縮尺 1 : 5000



## 1. 久米地域の概要

### (1) 沿革

- ・明治22年 久米村、大井西村、大井東村、大倭村、倭文東村、倭文中村が設置される。
- ・昭和15年 倭文東村と倭文中村が合併し倭文村となる。
- ・昭和18年 大井東村と大倭村が合併し大東村となる。
- ・昭和27年 大井西村と大東村が合併し大井町となる。
- ・昭和30年 久米村、大井町、倭文村が合併し久米町となる。
- ・平成17年2月28日 津山市、加茂町、阿波村、勝北町、久米町が合併し現在の津山市となる。

### (2) 地域の特性等

- ・久米地域は津山市の南西部に位置し、北は苫田郡鏡野町に、西は真庭市に、南は久米郡美咲町に接し、市境に位置する標高500～600mの山地に囲まれている。
- ・総面積74.39km<sup>2</sup>の60.4%を森林・原野が占めている。
- ・一級河川吉井川が東端を流れ、その支流である久米川と倭文川が東流して吉井川に注いでいる。
- ・河川に沿った平坦部には耕地が広がり、耕地の周辺には集落が発達している。また、谷間の丘陵地にも耕地と小規模な集落が点在している。
- ・中央部には中国自動車道とそれに平行して国道181号、JR姫新線が走り、南には国道53号から岡山空港に通じる国道429号が走っている。
- ・久米産業団地は、中国自動車道院庄ICから約3kmと交通の便に恵まれ、製造業や運輸業などの企業が進出している。
- ・糠山（すくもやま）を中心とした久米山一帯は、季節に応じて新緑、桜並木、紅葉、バードウォッチングなどが楽しめる自然豊かな里山である。中心部には、プロトーナメントが開催されたことのある市内唯一のゴルフ場や宿泊施設がある。
- ・東部を中心に久米地域の面積の約5割が津山市広域都市計画区域に編入されているが、用途地域は指定されていない。
- ・中国地方の道の駅ランキングで第1位となったことのある道の駅「久米の里」は、新鮮な地元野菜などの農産物販売と、アニメに登場する高さ7mを誇る巨大ロボットのモビルスーツが人気を博しており、春には14種類



久米支所

約2,000本の紅白梅が咲き誇る「梅の里公園」とともに、県内外から多くの観光客でにぎわっている。

- ・久米地域には、この地が古くから繁栄していたことわかる古墳や遺跡、出雲街道の面影を残す町並みなどの文化遺産が点在している。

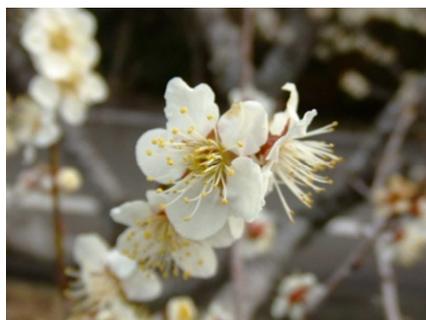
### (3) 人口の推移

- ・久米地域における平成30年4月1日現在の人口は、6,547人（住民基本台帳）であり、市全体の約6.4%を占めている。（津山市全体101,598人）
- ・国勢調査結果では、平成17年は7,256人、平成27年には6,438人となっており、人口の減少傾向が続いている。
- ・平成27年国勢調査によると久米地域の高齢化率は37.4%であり、津山市全体の高齢化率28.8%と比べて非常に高い割合となっている。

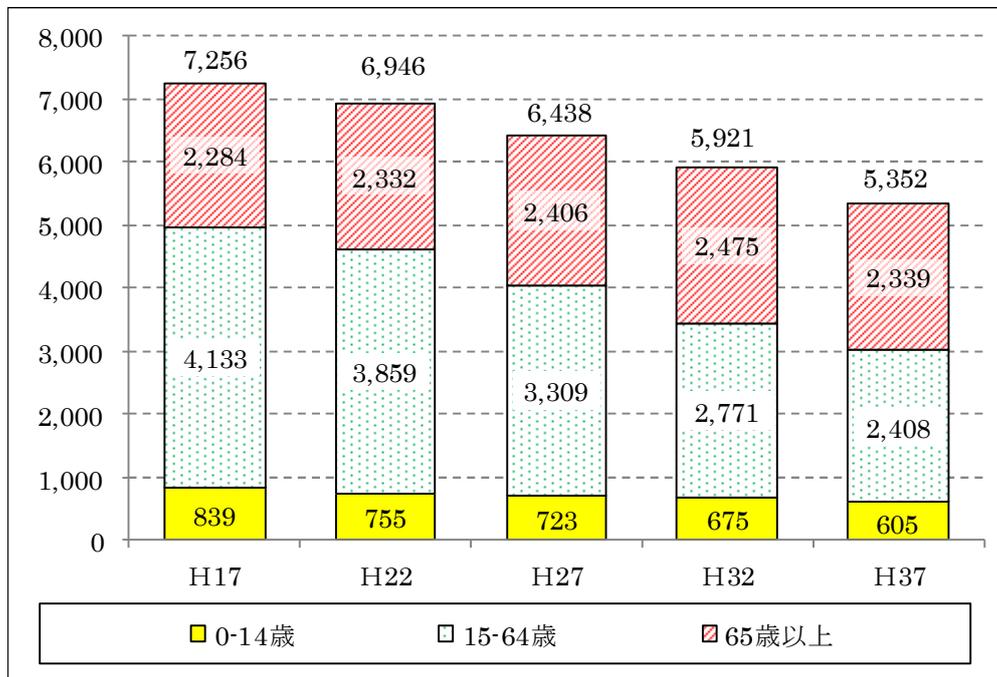
#### 久米地域の人口推移（資料：国勢調査）

（単位：人、%）

		H17	H22	H27	H32	H37
0-14歳	人口	839	755	723	675	605
	構成比	11.5	11.1	11.2	11.4	11.3
15-64歳	人口	4,133	3,859	3,309	2,771	2,408
	構成比	57.0	55.4	51.4	46.8	45.0
65歳以上	人口	2,284	2,332	2,406	2,475	2,339
	構成比	31.5	33.5	37.4	41.8	43.7
合計	人口	7,256	6,946	6,438	5,921	5,352



(単位:人)



※H32、H37の人口・高齢化率は、H29.8.1現在の人口・世帯数を基に『おかやま生き生き創造シート』により予測をしたもの。

## 2 まちづくりの方針

### (1) 地域生活拠点づくりの推進

#### ①現状と課題

- ・ 国道181号と県道久米中央線が交差する久米支所周辺地区は、久米支所をはじめとして、久米保健センター、久米図書館、久米公民館、久米総合文化運動公園、作州津山商工会久米支所、久米郵便局、JAつやま久米支店などの公共・公益施設と、コンビニエンスストアや飲食店が集積しており、地域生活拠点となっている。ただし近年利用の多かった医院及び薬局が廃業した。
- ・ 明治の大合併で6村となった久米地域は、津山市となった現在でも、津山市連合町内会の6支部の区域として引き継がれ、特色ある地域づくりやコミュニティの維持を図っている。
- ・ 久米地域の年齢段階別人口を、旧津山市の地域、加茂地域、阿波地域、勝北地域と比較すると、団塊世代を含む60歳代の構成比率は他地域より高いにもかかわらず、団塊ジュニア世代を含む40歳代前後の人口の構成比

率は高くない。地域活動で極めて大きな役割を担っている60歳代が支えられる側となる近い将来に備え、地域力の維持につながる体制づくりが求められている。

- ・ 少子高齢化の急激な進展、核家族化などにより、家庭や地域のつながりが希薄化し、身近な住民同士の交流やコミュニケーション不足が指摘されている。困った時に相談する相手がいない人や、助けが必要な状態にあることが把握されていない人を支えるための仕組みづくりが求められている。
- ・ 幼稚園希望者の需要を地域内で満たすことができるよう、久米保育所を平成29年度から保育所型認定こども園に移行している。
- ・ 久米地域の東部においては、若者の定住やI・J・Uターン者の受け入れができる民間の団地や分譲地が整備されている。
- ・ 情報通信網は今や社会生活においてたいへん重要な社会基盤であるが、久米地域には超高速通信網の未整備地区が多く残されており、市中心部との通信環境の格差がみられる。
- ・ 合併後、空きスペースとなっている久米支所の一部など久米地域の公共施設については、今後有効な活用を検討する必要がある。



久米ふるさとまつり（仙人太鼓）

## ②施策の方向

- ・ 防犯防災・教育・歴史伝統文化の継承・地域産業など、地域の状況に応じた様々な課題について、住民自らが主体的に取り組む地域づくりを醸成し、集落機能の維持強化を図る。
- ・ 世代を超えた地域交流を促す「久米ふるさとまつり」などの地域行事を支援し、地域の一体感を醸成するとともに地域活動への参加意欲の高揚を図る。
- ・ 地域づくりの担い手育成の研修の開催や地域活動に対する相談体制の充実などを通して、地域の課題解決や交流促進のリーダーとなる人材や団体を育成する。
- ・ すべての地域住民が住み慣れた地域で安心して快適に暮らせるように、全支部地域で「小地域ケア会議」の設立を目指し、福祉目線で住民相互の連携と支え合いを深めて活力のある地域づくりの推進と強化を図る。
- ・ 地域で孤立することなく、健やかに暮らせるよう、子育て世代の親子が交流できる「子育てホットサロン」やボランティア組織による「親子広場すくすく久米」、地域ぐるみで介護予防を進める「めぎせ元気！！こけないか

らだ講座」などの取り組みを推進する。

- ・地域の活力を維持するため、久米地域独自の魅力を発信し、若い世代を惹きつけ、団地や分譲地、空き家などを活用した移住、定住を促す。
- ・久米支所の空きスペースについては、公益的団体の誘致を図るなど有効活用の促進を図る。また、久米地域の公共施設については、利用状況を確認しながら津山市公共施設再編基本計画に基づき、修繕や関係機関などへの譲渡などを検討していく。
- ・超高速通信網の整備を促進するよう関係機関に要請し、住民や事業者の情報通信ニーズが満たせるように、通信環境の充実を図る。

## (2) 自然環境の保全、環境負荷の低減

### ①現状と課題

- ・稼山を中心とした久米山一帯は、豊かな自然に恵まれ、我が国の製鉄史研究を大きく進めた県指定史跡である「大蔵池南製鉄遺跡」などの貴重な遺跡が点在している。また、ボランティアグループやNPO法人による森林資源の保全を目的とした遊歩道の設置や林内の草刈が行われている。
- ・平成29年度末の水洗化率は73.9%と未整備地域が残されている。
- ・久米地域に建設された津山圏域クリーンセンターの稼働に伴い、平成28年度からごみ処理方法が全市で統一された。

### ②施策の方向

- ・里山や森林は、良好な住環境を支える要素の一つであるだけでなく、地球環境への負荷を低減する観点からも重要である。豊かな里山である久米山一帯については、積極的に保全・管理を行いながら、関係町内会、各種団体、関係部署等と会議体を設置し、産業、福祉、教育及び文化など多角的な視点から、よりよい利活用策について検討していく。
- ・下水道や合併浄化槽の整備を推進し、水質汚濁の防止に努めながら、良好な住環境の形成を図る。
- ・津山圏域クリーンセンターには、リサイクルプラザが設けられており、リユースコーナーでは、不用品の再利用促進、環境学習講座・イベントを実施している。これらを環境学習の拠点施設として活用し、循環型社会の実現に向けて、ごみの減量化とリサイクルの推進に関する啓発を推進する。

### (3) 産業の振興

#### ①現状と課題

- ・生産・流通の拠点である久米産業団地には、平成31年3月1日現在、9社（25.3ha、80.4%）が立地し、残る区画は2区画であり、積極的に企業誘致に努めている。
- ・主要な産業は農業であり、農用地面積1,099ha（平成29年度末）は久米地域全体の約15%を占めている。水稲栽培を中心に、ジャンボピーマンや自然薯などの野菜、新高梨やピオーネなどの果物の栽培も盛んで、梅漬け、梅ゼリーなどの加工品とともに道の駅久米の里やJAつやまを通じ出荷、販売している。
- ・久米地域内の農業振興地域の農用地約697haのうち、ほ場整備実施面積は502.8haで、ほ場整備率は72.1%と他地域に比べ低い状況にある。
- ・農業従事者の高齢化と担い手不足や離農者の増加に伴い、耕作放棄による農地の荒廃が進み、イノシシやシカなどによる農作物被害が増加するなど、農業を取り巻く環境は厳しい状況にある。
- ・久米地域内には堆肥処理施設「ゆうきの丘」があり、指定事業者が家畜排せつ物を発酵堆肥として、製造・販売する事業の管理運営を行っている。製造された良質な堆肥は、水稲、野菜栽培の土づくりに活用されており、耕畜連携による環境保全型農業のモデルとなっている。一方で、処理施設や設備の老朽化が進んでおり、修繕や更新が課題となっている。
- ・道の駅久米の里は、平成28年3月にリニューアルし、イベントを通して、地域交流や情報の発信拠点としての役割を果たしている。来客者の商品やサービスへのニーズは年々多様化しており、さまざまなサービスや一層の機能の充実が求められている。
- ・久米地域全体の約6割（4,159ha）の面積を豊かな森林が占めており、人工林の多くはヒノキの植林となっている。林業家の高齢化や木材価格の低迷により、森林が放置され荒廃が進む傾向がある。



久米産業団地

#### ②施策の方向

- ・久米産業団地については立地企業のニーズに合わせた用地の提供に努め、優良企業の立地を促進し、雇用者数の増加を図る。
- ・基盤整備による農業生産のさらなる拡大と効率化を図るため、計画的にはほ場整備の推進に努める。
- ・高付加価値化された農産物の生産拡大を行い、栽培管理技術の向上とともに

- に環境保全型農業に取り組み、地産外商による域外マネーの獲得など、J Aなどを通じて販路の拡大を目指し、経営の安定と農家所得の向上を図る。
- ・新規就農者や認定農業者の育成、集落営農法人（組合）の組織化を図り、農地中間管理事業を活用し、地域の担い手へ農地を集積することにより、農作物の生産拡大と農業生産の効率化を図る。
  - ・遊休農地となっている農地所有者に対して農地中間管理事業の利用勧奨など遊休農地の解消につなげていく。
  - ・鳥獣害の対策については、防護柵設置による助成を促進するとともに、有害鳥獣駆除事業補助金を交付し、駆除を促進することで被害発生抑止を推進する。また、狩猟免許取得者や更新者に講習費用などを助成し、実施隊員確保に努める。
  - ・堆肥処理施設ゆうきの丘については、環境問題の解消を図り、堆肥の利用促進をPRし販売量の増加に努めながら施設の維持管理を行う。また、施設の改修、修繕対策については、利用農家の高齢化や後継者の育成状況も踏まえ検討していく。
  - ・道の駅久米の里については、指定管理者と協議を行いながら、顧客ニーズに応じたサービスの見直し、店内装飾や商品表示などの改善に取り組み、利用しやすい施設をめざす。また、情報コーナーにおいては道路規制情報表示の改善、観光情報などの機能充実に取り組み、利用促進を図る。
  - ・森林資源の保全と活用を図るため、林道、作業道などの林業基盤の整備に努めるとともに、森林組合等と連携して、適正な森林の管理をすすめる。



道の駅「久米の里」

#### （４）地域生活拠点と小さな拠点との連携強化

##### ①現状と課題

- ・久米地域は中央部に国道181号、南部に国道429号が横断し、市中心部への重要なアクセスとして県道・市道などが整備されている。
- ・通学路線にもなっているJR姫新線は、沿線住民の減少や自家用車の利用拡大に伴い、利用者の減少が続いている。また、市中心部への公共交通として、ごんごバス久米線やあさひチェリーバスが低料金で運行されている。

- ・ 自家用車を運転できない高齢者などの移動手段として公共交通の重要性が増大しており、地域一体となった交通網の形成が不可欠となっている。

## ②施策の方向

- ・ 国道・県道・市道の改良を進め、交通安全施設の整備を図る。
- ・ 高齢者が利用しやすいよう、ごんごバスや久米地域巡回バスの利便性の向上を図り、JR姫新線も含めて公共交通の利用促進に努める。

## (5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり

### ①現状と課題

- ・ 久米山を中心とした里山は、豊かな自然に触れる体験活動の開催地として活用されており、野外活動や環境学習などのレクリエーション活動が行われている。
- ・ 久米山の中央を南北に通じる市道沿いの桜並木は、春には桜のトンネルとして親しまれている。また、南端には、ゴルフ場や宿泊施設があり、県内外から多くの人々に利用されている。今後は自然を生かした活用策に加え、久米山全体の利活用に向けた検討が求められている。
- ・ 3月になると一面に梅の花が咲き誇る梅の里公園は、「梅まつり」などのイベントや梅を使った特産品づくりに活用されている。梅の木の植栽から25年以上が経過し、観光客の利用を促進するため、公園の再整備を実施している。
- ・ 県指定史跡である「岩屋城跡」は、春は花見、秋は紅葉狩りとウォークラリー、正月はご来光登山と四季を通じて親しまれている。
- ・ 夏季限定の流水プールと通年利用できる室内プールを完備した温水プール「レインボー」や、ナイター設備の整った久米総合文化運動公園などの体育施設を活用し、年間を通じて多くの住民がスポーツやレクリエーション活動に親しんでいる。



岩屋城ウォークラリー

## ②施策の方向

- ・ 道の駅久米の里や久米山は県推奨サイクリングルートの子ルートに追加されており、近年の自転車ブームを地域資源の魅力を発信する機会と捉え、

地域の活性化につなげるよう取り組む。

- 道の駅久米の里「仙人まつり」や梅の里公園の梅まつりなどのイベントの活性化と情報発信に努め、地域資源などを結ぶ周遊コースの検討など多くの観光客を呼び込み賑わい創出につなげる。
- 社会体育施設の安全性と利便性を確保しながら住民がスポーツやレクリエーションに一層関心を持ち、健康・体力づくりや活力の増進が図られるよう、参加しやすい環境づくりとスポーツの振興に取り組む。
- 既存施設を活用するなど、田舎暮らしや農業体験を提供する滞在型の農家民泊を検討し、観光客の集客や都市部からの定住促進に努める。

## (6) 生涯学習活動の振興と高齢者の生きがい対策

### ①現状と課題

- 中心部に集積している久米公民館や久米図書館、久米総合文化運動公園、久米歴史民俗資料館など教育・文化施設と、5館のふれあい学習館を拠点として、さまざまな生涯学習活動が実践されている。
- 平成27年度に創設30周年を迎えた久米文化協会をはじめ、多くの団体が久米仙人太鼓や木工教室などさまざまな生涯学習活動を展開し、熱心な活動によりレベルアップを図っている。各グループにはメンバーの固定化や高齢化の傾向があるが、会員以外にも門戸を広げた講座を開催するなど、生涯学習に触れる機会を広げる活動の推進に努めている。

### ②施策の方向

- 子どもたちの健やかな成長と高齢者の健康や生きがいある生活につながるよう学習ニーズに応じた生涯学習活動を推進するとともに、学習による仲間づくりや交流の場の拡充、小中学校・保育所・こども園、家庭、地域が連携した事業の推進など生涯学習の充実を図る。
- 久米公民館やふれあい学習館などで開催される文化祭、格致大学（高齢者講座）、ミュージックフェスティバル in 久米や久米文化協会の活動など生涯学習に親しむ環境づくりを推進し、学んだ成果の発表の機会を充実するなど、久米地域に根差した主体的な生涯学習活動を支援する。
- 「津山っ子を守り育てる市民の会久米ブロック」や地域学校協働本部事業、放課後子



格致大学

ども教室「久米キッズクラブ」など地域ぐるみで青少年の健全育成を推進する。

- ・久米公民館や久米図書館など学習環境の整備に努め、社会教育施設の利用促進を図る。

## (7) 歴史遺産の保全・活用

### ①現状と課題

- ・古墳時代の5世紀前半に築かれたとされる国指定史跡「三成古墳」や、白鳳時代の創建である「久米廃寺跡」、幻の古代織物の名を地域名に残す「倭文地区」、江戸時代の出雲街道の面影を残す「坪井宿」、大正時代に建築され「にっぽん木造駅舎の旅100選」に紹介されている美作千代駅舎など、多くの遺跡や歴史遺産が残されている。
- ・室町時代から戦国時代にかけて激しい攻防が繰り返された美作国守護職の本城として築かれた岩屋城跡には、城の周囲に当時の城攻めの陣形がわかる陣城(※1)や土塁の遺構(※2)が残り、全国的にも貴重な遺跡とされる。
  - ※1 城攻めのために攻撃側が臨時的に築いた城
  - ※2 敵の侵入を防ぐために築かれた土製の堤防状の壁
- ・長谷地区には、全国に数カ所を数えるのみのトラフダケ(※3)の自生地があり、昭和51年に国指定天然記念物に指定されている。
  - ※3 ヤシヤ竹の竿に虎斑菌が寄生し黒褐色の斑紋が現れたもの。古代より装飾品として珍重されている。
- ・次世代に語り継ぎたい地域固有の伝統文化や、貴重な文化遺産を後世に伝承していく担い手は高齢化の傾向にある。

### ②施策の方向

- ・名所旧跡や文化財については、歴史的景観を保全し活用を図りながら、保存、整備に努める。
- ・岩屋城跡については、県史跡岩屋城跡の総合調査の実施に向けて準備をすすめる。
- ・地域活動による世代間の交流や、小中学校・保育所・こども園での活動を通して、子どもの体験活動や昔から地域に伝わる祭り、地域の歴史、伝統に触れる機会を促進し、久米地域への誇りと愛着を醸成する。

## (8) 安全・安心のまちづくり

### ①現状と課題

- ・久米地域には、土石流、急傾斜の崩壊にかかる警戒区域や土石流危険渓流(※4)が多く指定されていることから、台風や大雨などの災害に備えて平素か

ら災害に対する意識の啓発を推進していく必要がある。

※4 勾配が15度以上で土石流発生の危険性があり、人家や公共施設に被害を生じるおそれのある溪流

- ・高齢者人口、高齢運転者数は増加傾向にあり、高齢者がかかわる事故の増加が懸念されている。また、子どもや障害者などの交通弱者を思いやり、不慮の事故から守るためにも、交通安全に対する意識の啓発や環境整備などの総合的な対策を推進する必要がある。
- ・平成27年度津山市空家等実態調査によると、久米地域には空き家が333棟あり、空き家率は10.4%となっている。人口減少や単独世帯の増加などが見込まれる中、今後も空き家の増加が懸念される。

## ②施策の方向

- ・防災ハザードマップや防災無線などを活用し、住民に危険箇所の周知や災害に対する啓発を行うとともに、地域での防災訓練など自主防災組織の活動を支援する。
- ・交通安全意識の徹底を図り交通事故を減らすため、津山警察署や久米地域交通安全協会、久米地区交通安全対策協議会と連携し、春と秋の交通安全県民運動にあわせた交通安全パレードやテント村の実施など、地域ぐるみの交通安全意識の高揚に努める。
- ・住民の利便性や安全性の向上をめざし、生活道路や歩道、河川、交通安全施設の改良や修繕などの整備を推進する。
- ・空き家が、防災・防犯・景観など周辺の住環境に悪影響を与えないよう、生活環境の保全を図り、あわせて空き家の利活用を促進するなど、津山市空家等対策計画に基づき総合的な対策を推進する。



交通安全啓発活動

## 久米地域アクションプラン

施策区分	事業名	事業内容
(1) 地域生活拠点づくりの推進	地域づくり活動支援	集落機能の維持強化を図るため、住民自らが主体的に取り組む地域づくり活動（地域運営組織の設立）を支援する。
(2) 自然環境の保全、環境負荷の低減	久米山利活用推進	久米山の適切な保全・管理を行うとともに、産業、福祉、教育など多角的な利活用が図られるよう地元地域とともに検討していく。
(3) 産業の振興	地産外商等の推進	生産・販売の関係機関などと連携を図り、道の駅久米の里の活用等により、農業ビジネスとして地域の農産物を安定的に生産、供給できる仕組みづくりを進める。
(5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり	「梅の里公園」の活性化	来訪者の満足度を高めるため、梅の木及び公園内施設・設備等の適切な維持管理に努め、イベントの活性化を図り、賑わいの創出につなげていく。
(6) 歴史遺産の保全・活用	岩屋城跡の国指定推進	貴重な城跡を保護し、後世に受け継ぐために、岩屋城跡（県指定史跡）の総合調査に向けて、関係機関や土地所有者と協議を進める。

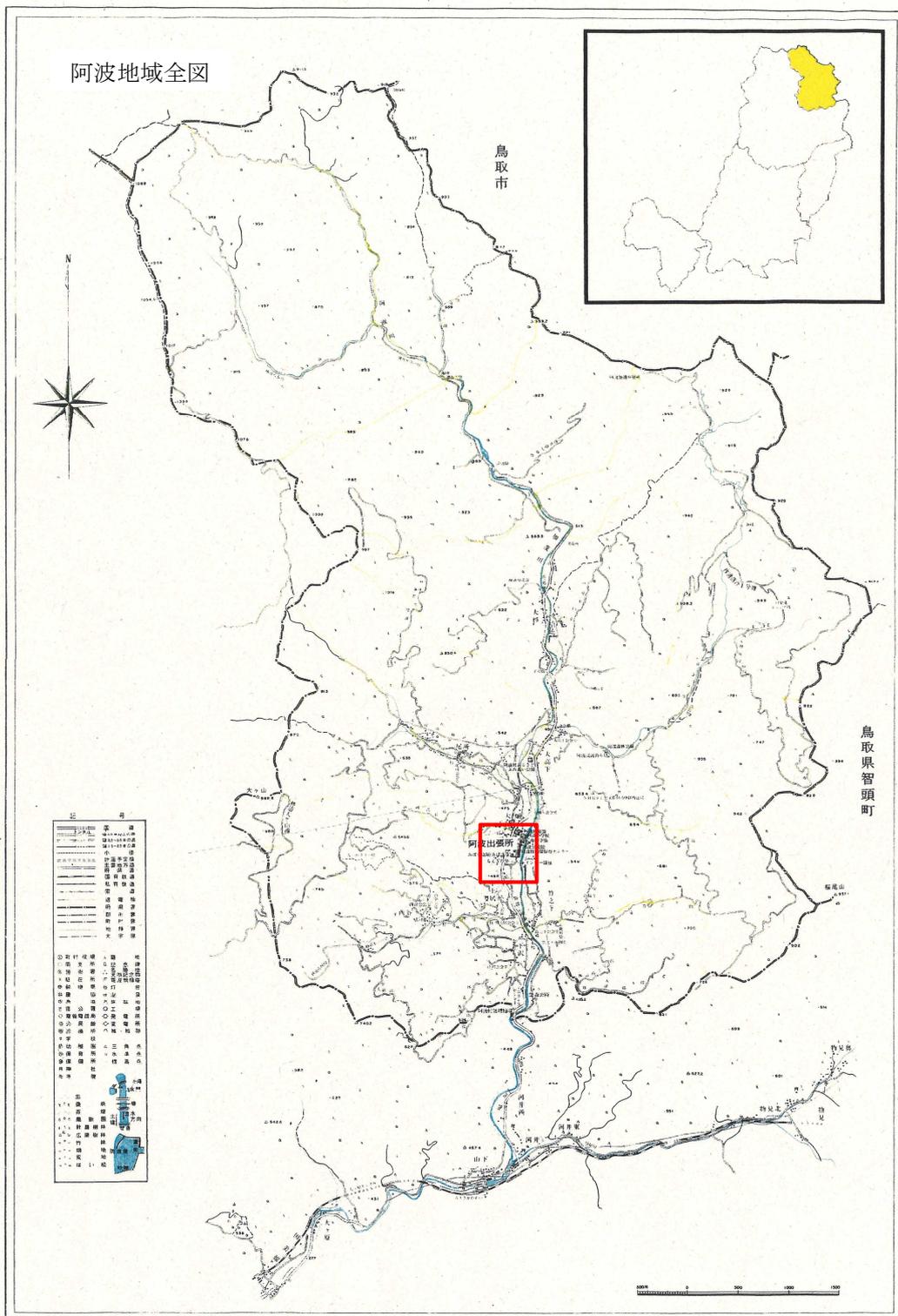


# 阿波地域振興ビジョン



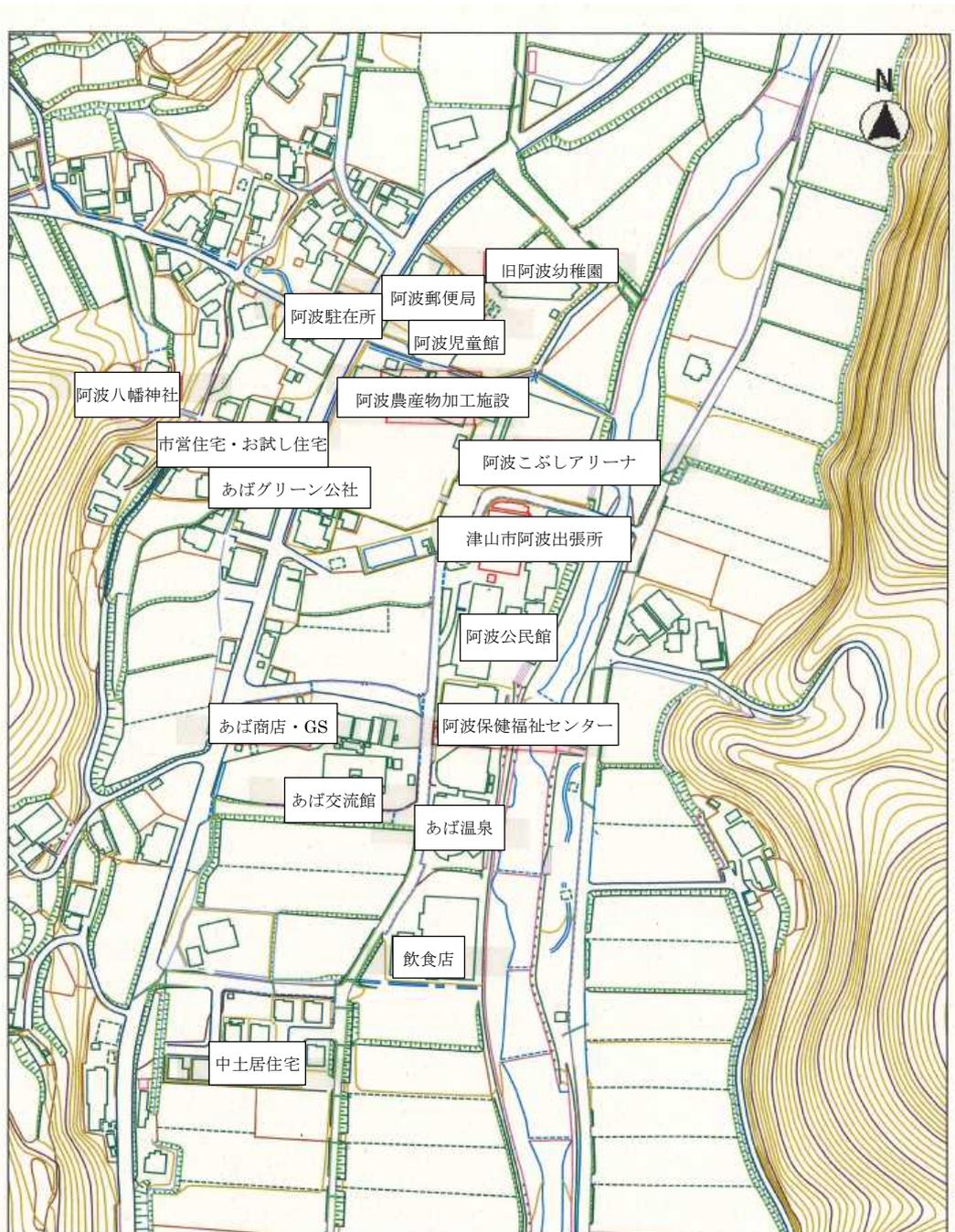
津山市阿波出張所

# 阿波地域全図

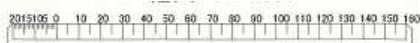


地域生活拠点 (次ページ)

## 阿波地域の地域生活拠点周辺図



縮尺： 1 : 3500



## 1. 阿波地域の概要

### (1) 沿革

- ・明治22年6月 町村制施行により、阿波村が設置される。
- ・平成17年2月28日 115年続いた阿波村から、津山市、加茂町、阿波村、勝北町、久米町が合併し、現在の津山市となる。

### (2) 地域の特性等

- ・阿波地域は、津山市の北部に位置し、海拔は中心部で約420m、東西約5km、南北約10km、総面積は42.07km<sup>2</sup>で、約94%を山林が占めている。  
北東部を鳥取県と接し、市の中心部までの距離は、約32kmと離れている。
- ・中国山地の山あいにあつて、周囲を標高1000m級の山々に囲まれており、この山中を源流として、西谷川、尾所川、落合川、廻川の支流を集め、岡山県下三大河川吉井川の支流である、加茂川に注いでいる。  
これらの川に沿って、標高370mから560mの間に約140haの農地が開け、その中に集落がある。  
地質は、花崗岩が大部分を占め、安山岩、結晶片岩、砂礫層および粘土層によって構成され、この基盤のうえに形成された土壌は、肥沃な褐色森林土が主体である。
- ・気候は、冬は雪に覆われて寒く、春は新緑に包まれ、夏は青葉と涼風で過ごしやすく、そして秋は紅葉に彩られる。初雪は11月中下旬、晩雪は3月下旬、根雪期間は約75日間である。冬の気候の指標となる積雪量は、昭和59年には、地域の中心部で211cmを記録した。地球温暖化の影響を受けているとはいえ、平成29年には100cm以上の積雪となるなど、山陰側気候に類似している。
- ・農用地については、全地域において101.3haのほ場整備が完了している。
- ・阿波地域の約59%は、氷ノ山後山那岐山国定公園となっており、昭和44年に国の指定を受けている。また、大高下・大杉地区は、昭和49年岡山県の指定する「大高下ふるさと村」となっている。  
さらに、平成21年朝日新聞社主催の「にほんの里100選」に選出され、



平成29年環境省から「生物多様性保全上重要な里地里山500」に選定された。

- ・標高900～980m、面積200haの黒岩高原から布滝、大滝、白髪滝を経て、落合川一帯は、阿波森林公園として、春の新緑や秋の紅葉等自然の宝庫である。また、大ヶ山は活火山でない火山で、頂上は約20haの平坦な台地状の草原が広がり展望がよい。
- ・阿波八幡神社は、慶雲2年（705年）に村の鎮守として祭祀したのが最初と伝えられている。八幡神社創祠祭で別名「花祭り」は、地域内の8地区が趣向を凝らした造花をつくり、奉納し、御神幸の帰途盛大に練り合う。花祭りは、加茂地域の物見神社とともに岡山県指定重要無形民俗文化財となっている。
- ・尾所地区には推定樹齢約570年、樹高14m、幹周り5mの巨木の山桜1株がある。樹姿は貫禄があり気品もある。標高480mにあるため開花時期は4月中下旬となり、市内で一番遅い桜を楽しむことができる。
- ・あば温泉は、檜風呂、岩風呂のほか、機能回復訓練浴室も併設しており、泉質は、アルカリ性単純温泉（ラドン含有）である。
- ・阿波地域の94%を占める山林は、東中国山地にあたり、山霧に覆われる事が多く、良質の杉の産地となっている。

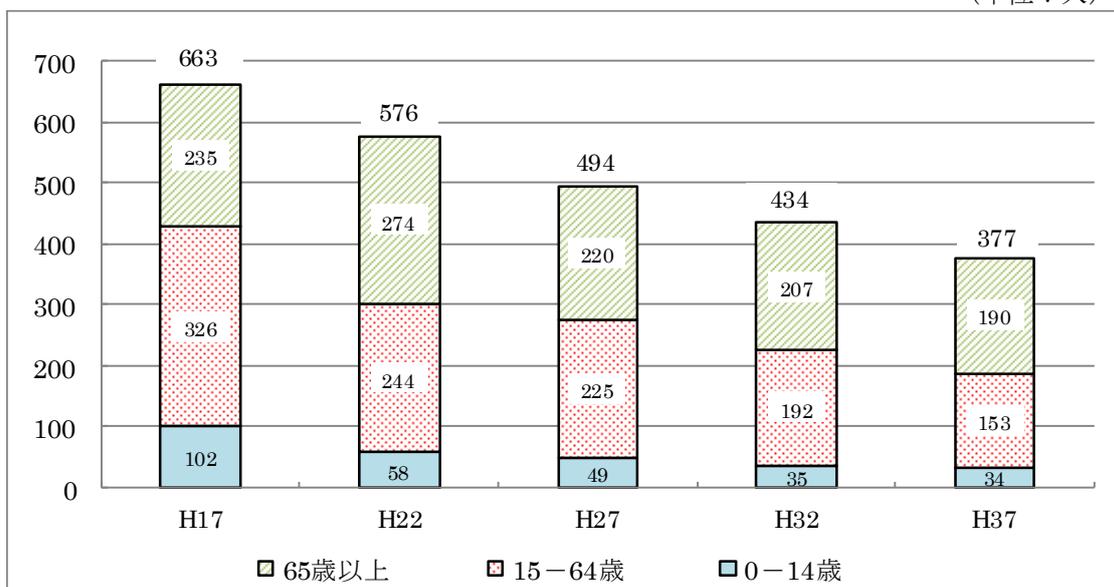
### （3）人口の推移

阿波地域の人口推移（資料：国勢調査）

（単位：人、％）

		H17	H22	H27	H32	H37
0-14歳	人口	102	58	49	35	34
	構成比	15.4	10.0	9.9	8.1	9.0
15-64歳	人口	326	244	225	192	153
	構成比	49.2	42.4	45.6	44.2	40.6
65歳以上	人口	235	274	220	207	190
	構成比	35.4	47.6	44.5	47.7	50.4
合計	人口	663	576	494	434	377

(単位：人)



※H32、H37の人口・高齢者率は、H29.8.1現在の人口・世帯数を基に「おかやま生き生き創造シート」により予測したもの。

- ・阿波地域における平成30年4月1日の人口は、504人（住民基本台帳）であり、市全体の約0.5%となっている。（津山市全体 101,598人）
- ・国勢調査の結果では、平成17年は663人、平成27年は494人となっており、人口減少が顕著である。
- ・平成27年国勢調査によると阿波地域の高齢化率は44.5%であり、津山市全体の高齢化率28.8%と比べて非常に割合が高くなっている。

## 2. まちづくりの方針

### (1) 地域生活拠点づくりの推進

#### ① 現状と課題

- ・阿波地域は8つの集落があり、比較的まとまった集落配置となっているが、自治会の規模が小さく運営に苦慮している。  
阿波地域の中央部、阿波出張所周辺は、公民館、保健福祉センター、あば交流館、あば温泉、児童館、駐在所、郵便局、農産物加工施設（阿波グリーン公社）等が集中しており、地域生活拠点を形成している。
- ・少子高齢化の急激な進展、核家族化などにより、家族や地域のつながりが希薄化し、身近な住民同士の交流やコミュニケーション不足が指摘されている。困った時に相談する相手がいない人や、助けが必要な状況にあることが把握されていない人を支える仕組みづくりが求められている。

- ・児童数の減少により、平成25年度末、阿波小学校は閉校した。阿波幼稚園は平成24年度から休園しており、加茂・阿波地区の津山市立教育・保育施設再構築事業により平成30年度末で閉園となる。
- ・平成26年に阿波地域で唯一のガソリンスタンドが閉鎖されたため、地域住民が合同会社を設立し、ガソリンスタンドを経営している。また、日常の買い物が困難な高齢者などの生活を支えるため、合同会社では食料品や日用品等を販売しているが、経営は不安定である。
- ・過疎地有償運送をNPO法人が運営しているが、運営スタッフの確保に苦労している。また、福祉有償運送への事業拡大・変更も検討している。
- ・公共施設の維持管理や今後の在り方について、公共施設再編計画に沿った検討が必要である。
- ・CATV網の整備により、テレビ難視聴対策と、ブロードバンドインターネット環境整備は完了したが、今後の維持活用について検討が必要である。



阿波出張所庁舎

## ② 施策の方向

- ・地域住民が様々な課題について話し合い、解決していく地域運営組織「あば村運営協議会」や小地域ケア会議の自主的な地域活動を支援し、住民相互の連携を深めて活力ある地域づくりの推進と強化を図る。  
阿波地域に「住み続ける」「帰ってくる」「住みたくなる」ことができるように、地域拠点の機能を維持し、十分に活用できるよう努める。
- ・平成28年度農産物加工施設として改修した旧阿波小学校特別教室棟は、利用者の拡大や有効・有益な利活用を検討する。
- ・閉園した阿波幼稚園について、園舎の利活用の検討を行う。
- ・日用品やガソリン等の販売を行う合同会社あば村の経営を、地域をあげて支援する。
- ・地域のNPO法人が検討をしている福祉有償運送など、自動車の運転を行わない人々の有効な移動手段の構築を支援する。
- ・阿波こぶしアリーナを活用して各種スポーツ合宿の誘致を進める。
- ・津山市公共施設等再編基本計画に基づき、公共施設の適切な管理について検

討する。利用頻度がなく危険性のある施設については撤去し、地域生活に欠かせない施設については、補修・改修など適切な管理を行う。

- ・CATV網を有力な地域通信網と位置づけ、いつでも・どこでも・だれでもICTの恩恵を受けることができる社会の実現を図り、少子高齢化や過疎化といった地域の様々な課題を解決するため、高齢者が使いやすい画面操作で提供できるサービスを工夫し、医療・福祉、教育等、生活に身近な分野において、一層のICTの利活用を推進する。

## (2) 自然環境の保全、環境負荷の低減

### ① 現状と課題

- ・水源涵養・土砂流出防備・保健保安林など多様な公益的機能を有する豊かな森林があり、また氷ノ山後山那岐山国定公園が阿波地域の約59%を占めている。
- ・住民自治協議会のあば村運営協議会では、小水力発電事業の取り組みについて、計画河川において流量調査等を行い、事業化の可否の検討を進めている。

### ② 施策の方向

- ・水源涵養機能や、防災・減災等のため、長期的な展望に立って森林機能を向上させ、美しい自然環境の保全を図る。
- ・自然エネルギーを生かし、環境負荷の少ない小水力発電事業などへの取り組みに対する支援を行う。

## (3) 産業の振興

### ① 現状と課題

- ・耕作者の高齢化や、耕作放棄等により農地の荒廃が増えており、利活用が喫緊の課題である。
- ・地域の約94%を占める山林は、防災・減災や、水源確保、収益などのため、保育を行っているが、林業就労者の確保が急務である。
- ・あば村運営協議会が中心となって、間伐材を木質チップ化し、あば温泉の熱源として有効利用を図る木質バイオマス事業「木の駅プロジェクト」を推進している。
- ・農林業や地域住民の安全に対し、甚大な被害を及ぼすイノシシ・シカなどの有害鳥獣について、駆除事業を実施しているが、鳥獣の個体数の急激な増加と実施隊員の不足により、効果は少ない。
- ・新たに施設整備を行った農産物加工施設は、加工品の安定的な生産や開発、

販路の拡大を目指し情報収集に努めている。

- ・大ヶ山山腹の大ヶ山牧場については、地域内に放牧を行う農家が存在しなくなった。

## ② 施策の方向

- ・農業従事者の高齢化等に伴う遊休農地の有効活用を検討し、農用地の集積・集約化を図る。また、農産物の中心となる米作りについては、寒暖差のある気候と谷川の源流を活かし、穀類乾燥調整施設や農産物集出荷貯蔵施設を活用して、低温管理された“氷温米”の販路の拡大を支援する。
- ・森林整備については、防災・減災に寄与することをはじめ、適期に植生の更新や間伐等保育作業の計画施工を行い、適正な管理や就労者の確保を推進する。
- ・木の駅プロジェクト事業を推進し、木質チップを安定的に温泉施設へ供給できるように体制整備を図る。
- ・鳥獣被害対策実施隊阿波班と連携を密にし、広域で協働して有害鳥獣駆除を計画的に進め、新たな実施隊員の育成にも努める。また、捕獲後廃棄をしている食用部位や皮革について、有効活用できるように検討する。
- ・特産館から機能を移転した農産物加工施設において、地域産農産物の加工品の開発、従事者の育成、販路の開拓を行い、安定的な運営体制の構築を促し、地域活性化に繋がるように支援する。
- ・大ヶ山牧場は、農業・畜産業用にとらわれず、草地や地形を活かした利用方法を検討する。

## (4) 加茂地域との連携強化

### ① 現状と課題

- ・市営阿波バスは、加茂中学校のスクールバスとしても運行しており、車両の効率的な運行を図っている。
- ・市営阿波バスは、阿波地域唯一の公共交通機関であり、高齢者など、自動車を運転しない人々にとって、日常生活の交通手段として定着している。
- ・阿波小学校の閉校に伴ない、児童は加茂小学校へスクールバスによる通学をしている。
- ・阿波地域には、医療機関がないため、加茂地域や市中心部の医療機関を利用する者が多い。

### ② 施策の方向

- ・市営阿波バスと中学校のスクールバスを兼ねている車両の更新時期につい

て見極めていく。

- ・スクールバス等の車庫の老朽化が目立つため維持管理に努める。
- ・市営阿波バスの運行は、通勤・通学・通院・買い物など日常生活を支える基礎になっているため、公共交通網を維持する。

## (5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり

### ① 現状と課題

- ・森林公園（溪流釣場、溪流茶屋等）は、地域をはじめ県内外から多数の利用客を集めている。
- ・昭和44年指定の氷ノ山・後山・那岐山国定公園は、美しい山容と清流に包まれ、阿波地域の約59%を占めている。

布滝（のんだき）、白髪滝、大滝を含む落合溪谷や、深山溪谷は、四季折々の風物に恵まれている。

春夏秋を通して、来訪者が多いため、安全に通行できるように林道の保全管理等に努めているが、草刈りなどの管理について困難な状況が見受けられる。

- ・黒岩高原は、優れた景観が残されており、貴重な植生も残っている。
- ・大ヶ山山頂近くにある奇岩群付近の遊歩道は定期的にボランティアによって草刈りなど維持管理がなされている。
- ・尾所（おそ）の桜は、樹齢約570年の山桜であり、4月中下旬ごろの開花時期には多くのファンを集めている。
- ・あば交流館、あば温泉を中心とした「もえぎの里」は、山里のいやしスポットとして、近隣をはじめ県内外から来訪者が多い。

### ② 施策の方向

- ・森林公園内にある、溪流茶屋、バンガロー等は、適正な管理や修繕に努める。
- ・落合溪谷や深山溪谷については、不法投棄防止の啓発など一層の景観保全を行う。また通行時の安全に配慮した道路の管理に努める。



阿波森林公園（溪流釣場）



尾所（おそ）の桜

- ・黒岩高原は、吉井川源流の一つとして、景観を保持し環境の保全に努める。
- ・変化に富んだ奇岩群と大ヶ山山頂付近を周遊できるよう環境整備を継続する。
- ・尾所の桜は、今後も桜の花を鑑賞できるように、定期的に専門家による手入れに努める。また、開花の時期には、多くの観光客によって生活道路が渋滞するため、地域住民の生活に配慮しつつ、安全に鑑賞できるように方策を検討する。
- ・あば交流館、あば温泉等は、阿波地域の観光の中心施設である。地域内や近隣の観光スポットと連携し、一体的なサービスの提供を推進する。



もえぎの里あば交流館・あば温泉

## （6）生涯学習活動の振興と高齢者の生きがい対策

### ① 現状と課題

- ・一人暮らし老人が増え、社会とのつながりを維持するため生涯学習の充実が必要である。
- ・老人クラブは高齢者の様々な活動の中心である。また、高齢者に対する地域の支えあいは社会福祉協議会が中心となって支援している。

### ② 施策の方向

- ・高齢者の孤立化を防ぐため、社会参加意識を高める環境づくりを行い、安心して過ごせる地域づくりの支援を行う。また、豊かな知識と経験、技能を有しており、能力や体力に応じて生きがいのある生活が送れるよう、生涯学習環境の充実を図り、活動の成果がまちづくりに繋がるよう支援する。
- ・老人クラブ会員等、高齢者が意欲を持って活躍し「出番」と「居場所」の環境づくりを推進する。

## （7）歴史遺産の保全・活用、景観形成の方針

### ① 現状と課題

- ・阿波地区内一社の阿波八幡神社の花祭りは、岡山県の重要無形民俗文化財に指定されている。
- ・昭和49年岡山県ふるさと村指定を受けた大高下・大杉地区の、「大高下ふるさと村」は、当時は茅葺屋根の民家が点在し、訪れる人も多かったが地

域内の家屋等の建て替えにより景観も失われつつある。

また、阿波地域は平成21年朝日新聞社主催による、「にほんの里100選」に選出され、農山村の原風景を保っている地域である。

## ② 施策の方向

- ・阿波八幡神社の花祭りの各地区による花造り作業は、コミュニティの基盤ともなっており、将来にわたり地域の貴重な文化財として保護する。
- ・大高下ふるさと村は、茅葺屋根など歴史的資源の維持管理に努める。

## (8) 安全・安心のまちづくり

### ① 現状と課題

- ・独居の高齢者や高齢者のみの世帯に加え、昼間、高齢者のみで過ごす人も多く、高齢者を取り巻く環境は厳しい状況にある。
- ・阿波地域は、山間の急傾斜地に囲まれた中に集落があるため、土砂災害等への警戒が必要である。
- ・市道や生活道路でもある農道、林道の敷設から年数が経過し、路肩の崩壊や路面の陥没等が恒常的に発生している。また、主要道路は県道加茂用瀬線の一路線しかなく他方面への交通網がない袋小路である。
- ・平成27年度津山市空家等実態調査によると、阿波地域には空家が38棟あり、空き家率は12.8%となっており、今後も人口減少や単独世帯が見込まれる中、空き家の増加が懸念される。
- ・農業集落排水の終末処理施設や排水管の維持点検を継続している。
- ・通勤・通学・通院等のための、生活道路の除雪は、通勤等に間に合うように早朝を中心に行っている。また、除雪機械を格納する車庫の雨漏りなど老朽化が目立つようになってきている。



ホイールローダーによる除雪

### ② 施策の方向

- ・各種団体によって構成されている、あば村運営協議会については、協力・役割分担をしながら地域生活が継続できるように活動を支援する。
- ・災害が発生した場合、山間地域特有の道路路肩崩壊や土砂流入により一時的に他地域との通行が遮断されるなどが想定されるため、阿波地域防災防犯会等と連携し、初期対応の体制整備を推進する。

- ・ 県道のバイパス的役割を果たす市道の保安全管理に努め、生活環境の向上を図る。また、市北部への人の流れを活発化させたり、災害時のバイパス的役割を担うことができるように、県道加茂用瀬線が鳥取市への通行可能となるよう働きかける。
- ・ 空き家が、防災・防犯・景観など周辺の住環境に悪影響を与えないよう、生活環境の保全を図り、あわせて空き家の利活用を促進するなど、津山市空家等対策計画に基づき総合的な対策を推進する。
- ・ 農業集落排水は、排水管や終末処理施設の維持管理をはじめ、公共用水域の水質保全を図り、快適な生活環境を保持する。
- ・ 冬季に道路が安全に通行できることは、最低限の課題であることを認識し、通勤・通学等の交通及び緊急時の交通確保のため、早朝に短時間での除雪を実施する必要がある。また、除雪事業の円滑な推進のため、オペレーターの確保や除雪機械の導入を検討し、未稼働期間を含め維持・管理に努める。

## **(9) 次世代育成**

### **① 現状と課題**

- ・ 阿波児童館は、地域内で唯一の児童や幼児のための施設である。また、放課後の児童対策を担っている。
- ・ 子ども会活動を行うたんぽぽクラブは、保護者を含めてボランティア活動や高齢者等と交流事業を行い、地域と連携している。また、中学校を卒業する時期に「4分の3成人式」を実施し、地域ぐるみで子育て支援の意識醸成に努めている。

### **② 施策の方向**

- ・ 児童や幼児数は減少傾向にあるが、児童館の効率的な運営を行う。
- ・ 地域内での子供たちの連携を図るため、地域全体での子育て支援を継続する。

## 阿波地域アクションプラン

施策区分	事業名	事業内容
<p>(1) 地域生活拠点づくりの推進</p>	<p>地域の核となる公共施設等の、長寿命化と機能の維持・充実</p>	<p>阿波地域の公共施設については、施設ごとではなく、エリア一帯の中で施設の在り方を検討し、地元要望も踏まえ、存廃、統廃合を進める。</p> <p>また、必要な施設については、長期的な展望に立って、施設・設備の改修・修繕を進め、利用者の満足度を高めると共に魅力ある施設を目指す。</p>
<p>(5) 自然を生かした観光・レクリエーションの拠点づくり</p>	<p>公共施設の有効活用</p>	<p>阿波地域の中心部に集積するあば温泉や阿波こぶしアリーナなどの公共施設を活用し、観光客の受け入れやスポーツ合宿などの誘致により、交流人口の増加を図る。</p>
<p>(8) 安全・安心のまちづくり</p>	<p>林道・市道や河川の維持管理</p>	<p>生活道として常時利用している阿波地域の林道については、市道と同様に生活道として利用されているものも多ことから、適切なメンテナンスにより危険箇所や補修個所の早期発見、早期対応に努める。</p>
	<p>除雪体制の整備・維持</p>	<p>阿波地域は、積雪寒冷特別地域に指定されており、冬季における雪害防止と円滑な交通確保のための除雪作業は欠かせないものとなっている。</p> <p>このため、除雪機械の計画的な更新や車両の維持管理を適切に行うことで、地域の安全・安心を確保する。</p>

加茂・勝北・久米・阿波  
地域振興ビジョン

平成31年 3月発行

津山市地域振興部

加茂支所	津山市加茂町塔中104	TEL0868-32-7031
勝北支所	津山市新野東567	TEL0868-32-7021
久米支所	津山市中北下1300	TEL0868-32-7011
阿波出張所	津山市阿波1209-4	TEL0868-32-7042

暮らし、  
ほんもの。

